



HKFA
ANNUAL REPORT

要覧

2024

HP 公開用

FOR FOOTBALL FAMILY

特集

第2種委員会
フットサル委員会
審判委員会

(一社)札幌地区サッカー協会
小樽地区サッカー協会
北海道社会人サッカー連盟



公益財団法人北海道サッカー協会

JFAの理念

サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、
人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する。

JFAのビジョン

サッカーの普及に努め、スポーツをより身近にすることで、
人々が幸せになれる環境を作り上げる。
サッカーの強化に努め、日本代表が世界で活躍することで、
人々に勇気と希望と感動を与える。
常にフェアプレーの精神を持ち、国内の、
さらには世界の人々と友好を深め、国際社会に貢献する。

JFAのバリュー

エンジョイ	スポーツの楽しさと喜びを原点とすること
プレーヤーズファースト	選手にとっての最善を考えること
フェア	オープンかつ誠実な姿勢で公正を貫くこと
チャレンジ	成長への高い志と情熱で挑戦を続けること
リスペクト	関わりのあるすべてを大切に思うこと



ホームページ公開用/目次

会長挨拶		1
特集		
	公益財団法人北海道サッカー協会 第2種委員会	3
	公益財団法人北海道サッカー協会 フットサル委員会	5
	公益財団法人北海道サッカー協会 審判委員会	7
	加盟団体 (一社)札幌地区サッカー協会	9
	加盟団体 小樽地区サッカー協会	11
	加盟団体 北海道社会人サッカー連盟	13
公益財団法人北海道サッカー協会 各種委員会の取り組み		15
加盟団体 15地区サッカー協会から		20
加盟団体 各種連盟から		34
データベース	2023年度	
	事業結果報告	44
	北海道出身各カテゴリー日本代表	52

※個人情報を除く内容を公開しております。



ご挨拶

フットボールファミリーの皆さまへ

平素より北海道サッカー協会の活動に対し、ご協力とご理解を賜りますことに心より感謝申し上げます。この度、2024年度HKFA要覧が完成致しましたので、ご報告申し上げます。

JFAの2005年宣言では“サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する”とあります。ここに私たちの事業や活動が繋がっており、幅広い種別と年代層がフットボールを楽しみ、身近にすることで、心身の健全な成長を促し、強化とともにフェアプレイと相手を思いやるリスペクトの精神が向上することで、豊かな人間性を涵養していくものと考えております。

特に2023年度には札幌ドーム様と北海道コンサドーレ札幌様のご協力をいただき、全国高等学校サッカー選手権大会北海道大会決勝の札幌ドーム開催に至り、多くの観客をお迎えし成功裡に終わることができました。初めて道東圏の帯広市で開催された、フットサル国際親善試合日本代表戦ではチケットが完売し、道内フットサルは大いに盛り上がりを見せました。

また、新型コロナウイルス感染症が2023年5月に第5類に移行されたことで、日常が正常化し国内景気の回復傾向に合わせ本協会主催事業においても、徐々に参加者が増加し活気を取り戻しつつあります。

このように2023年度に計画しておりました事業が停滞することなく無事に終了することができましたのは、皆さまのフットボールを続けたいという熱意が協会を支え、動かしてくれた結果であります。あらためてフットボールファミリーの熱い情熱に感謝申し上げます。

2024年5月には当協会の表彰式を執り行い、永年にわたり、北海道フットボールの発展に寄与、貢献された個人に、そして、2023年度の事業において、国際的または全国的な競技会で優秀な成績を収めた個人、団体に対し、敬意と謝意を表し、協会賞及び奨励賞を贈呈致しました。受賞された皆さまの今後益々のご活躍を祈念申し上げます。

人口の減少が問題とされるなか、当協会は今後もグラスルーツ(草の根)活動を充実させ、より多くの皆様がフットボールに親しみ、関わる人を増加させる取り組みに力を入れることが重要であると考えております。

今後も北海道のフットボールファミリーが明るく元気になるような施策を考え、実行してまいりますので、今後とも一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

公益財団法人北海道サッカー協会
会長 越山賢一

特集

第2種委員会の取り組み
フットサル委員会の取り組み
審判委員会の取り組み
(一社)札幌地区サッカー協会の取り組み
小樽地区サッカー協会の取り組み
北海道社会人サッカー連盟の取り組み



【第2種委員会】

全国レベルを目指すとともに



第2種委員会 委員長 石尾 浩一

コロナ禍が明けて 2023 年は全国からトップレベルのユース年代が北海道に集う記念すべき年となりました。また、新たな大会日程や会場使用、リーグ創設などに挑戦した年ともなりました。

(1)高円宮杯 JFA U-18 サッカープレミアリーグ 2023

北海道から8年ぶりに旭川実業高校が参戦することとなりました。気温3度の雨の中、400人以上の観客が旭川実業グラウンドの周りを埋め尽くし、青森山田高校とのホーム開幕戦が行われました。ピッチレベルでの観戦は、選手のレベルの高さはもちろん、表情や息づかい、体のぶつかり合う音も感じられ、迫力のある試合観戦となりました。プレミアリーグ EAST は、前年より2チーム増え12チームでの総当たりが行われ、全22節のうち11節を北海道で行うこととなりました。年代別の日本代表が何人も出場しており、北海道の方々がこのトップリーグから刺激を受け、日常のサッカー基準を上げるきっかけとなってくれることを願っています。

プレミアリーグに参戦しているチームの地域は、年間を通してこの高いレベルの試合を間近に観ることができます。2023 年はとても刺激となる年ではありましたが、今年も全国各地でプレミアリーグが実施されていることを考えると、その刺激を受けられない北海道との間に差を感じてしまいます。2023 年に感じたものを忘れず、再びあの刺激を間近で受けたいと感じました。

(2)令和5年度全国高等学校総合体育大会サッカー競技大会

夏には北海道でインターハイが開幕。男子は旭川市、女子は帯広市で開催されました。幸いにも旭川市でプレミアリーグが実施されていたため、インターハイで使用する各会場のシミュレーションを行うことができました。インターハイに向けて、旭川市には芝生の整備を数年前から取り組んでいただき、インターハイを機にサッカー環境がかなり改善されました。大会が始まると全国から多くのチームと観客が集まり、駐車場や観客席が想像していた以上に埋め尽くされ、サッカーへの注目の高さを改めて感じることができました。全国各地から予選を勝ち抜いた強豪同士の試合は見応えがあるのはもちろん、選手のオフザピッチの行動から刺激を受けた方も多かったのではないのでしょうか。この大きな大会を実施したことで、サッカー環境が改善され、多くの方々に感動や刺激を与えることができたことは、大きな成果と感じています。そして、北海道のサッカー関係者が運営に携わった経験は、今後活かされるものと感じました。

(3)全国高等学校総合体育大会サッカー競技北海道予選会

2023 年からは連戦の疲労によるケガ防止を考慮して、日程を分割して行うこととなりました。高体連札幌支部の札

幌英藍高校が、当番校として札幌 FA 協力もと、新たな大会日程で実施することができました。2024 年は1～3回戦を稚内市・枝幸町で、準決勝・決勝を札幌市で実施しました。高体連名寄支部の当番校である稚内高校を中心に、宗谷 FA と札幌 FA の協力を得て無事に実施することができました。

北海道の高校チーム数が減少しているため、2025 年からインターハイ出場枠が2枠から1枠へ減ることとなっています。そして、チームが減少した各高体連支部や各 FA の全道出場枠についても見直しが検討されています。各 FA で育てた選手を各 FA の2種で活動できるよう、合同チームの編成や登録についても FA と高校が連携を図る機会が増えてくると思われます。お困りの点があれば、ご相談ください。

(4) 高校サッカー選手権大会北海道大会

2023 年は1～3回戦を苫小牧 FA で行い、準決勝と決勝を札幌 FA で開催しました。例年とは異なり、準決勝を厚別公園競技場、決勝を初の札幌ドームで実施することができました。札幌ドームを使用するに当たり、費用の面も含めて様々な調整が必要でしたが、多くの方々のご協力のおかげで、決勝にふさわしい舞台を用意することができました。2024 年は1～3回戦を函館 FA で行い、決勝は札幌ドームで実施する予定です。ドーム開催は降雪の心配もなく、日程も全国各地の予選と同時期に実施できます。北海道の代表チームが全国大会で活躍できるよう、今後も様々な面でサポートしていきたいと考えています。

(5) 高円宮杯 JFA U-18 サッカーリーグ 2024 北海道 FA リーグ

2024 年よりプリンスリーグ2部に相当する北海道 FA リーグが開幕しました。背景としては、ブロックリーグとプリンスリーグの強度に差があり、プリンスリーグに昇格しても結果を残すことが難しい状況が続いていたため、より良い環境

で力をつけてもらえるよう、プリンスリーグの下に2部に相当する FA リーグを創設することとなりました。広域な FA リーグに参加することで移動等の負担が増すことにはなりませんが、それ以上に拮抗したゲームを通して、参加したチームが力をつけてくれることを期待しています。

(6) 高円宮杯 JFA U-18 サッカープリンスリーグ 2024 北海道

12月に行われるプレミアリーグプレーオフについては、2024 年よりプレミアリーグに参加しているチームの多い地域に出場枠が多く割り当てられることとなり、今年度は1枠となっています。プレミアリーグに参加し、戦い続けることは容易なことではありませんが、それにつながるプリンスリーグや FA リーグ、ブロックリーグを支えていきたいと思っています。

(7) 令和6年度全国高等学校総合体育大会サッカー競技大会

2024 年からサッカーについては、暑い夏に行われるインターハイを比較的涼しい地域で固定して実施する取り組みが始まります。男子は福島県、女子は北海道の室蘭市と伊達市で開催します。全国の優秀な女子サッカー選手が冷涼な地でベストパフォーマンスを発揮してくれることを期待しています。そして、多くの方々に観ていただき、北海道のレベル向上につながることを願っています。

以上、2023 年と2024 年の2種委員会の活動をまとめてみました。この他にも各ブロックの2種委員長を中心にブロックリーグを運営しています。また、11月に予定している FA リーグプレーオフも運営していきます。これからも北海道のサッカーが全国レベルとなるような環境を目指していくとともに、サッカーを覚えた子どもたちがユース年代でも気軽に続けていける環境を目指していきたいと考えています。今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。

【フットサル委員会】

フットサル日本代表戦と北海道のフットサルの展望について



フットサル委員会 委員長 野呂 雅友

2022年度から委員長を務めております。

日頃より各種フットサル大会の主管を受託していただいている15地区FAの皆様、運営役員の皆様、審判員の皆様には大変感謝しております。この場を借りて御礼申し上げます。フットサルを楽しむ選手の皆様の環境改善と将来のフットサル競技の普及と発展に向けて委員会一同一丸となって、サッカー競技と連携を図りながら邁進していく所存でございます。

さて、すでにご承知のとおり、北海道のフットサルとしては、2020年以来となりますが、2023年12月17日に帯広市総合体育館にてフットサル日本代表をお迎えし、国際親善試合を行いました。主管していただいた(一社)十勝地区サッカー協会の皆様には大会を成功裡に運営していただき改めて感謝申し上げます。対戦相手は、2016年のフットサルワールドカップで優勝した強豪アルゼンチン代表と対戦しました。チケットは早い段階で完売し、観客1,891人で見守った会場は大盛況となりました。あれ程の一体感のある体育館は、私は経験したことはなく素晴らしい会場でした。国際親善試合は東京と帯広市にて2試合行われましたが、東京の試合では、1対1の引き分けの結果でしたので勝負は2戦目に持ち越しとなりました。私はアルゼンチン代表の前日練習を観る機会がありました。JFAの事前情

報では東京で観光して前日練習はしないかも知れませんがと聞いていましたが、実際にはかなり真剣に取り組んでいた印象です。特に印象的だったのは、ウォーミングアップで体育館全面を使い、バレーボール2個でアイスホッケーのように壁ありゴール裏あり天井ありのファール以外のアウトオブプレーは無しで楽しんでゲーム形式でアップしていました。アルゼンチン代表の選手達は、基本はダイレクトプレーでパス回しも正確でした。若い選手が中心でしたが身体の大きな選手が多くフィジカルも強く足元もある選手達でした。



©JFA

試合内容について、私は初めてフットサル日本代表戦を観ましたが、コンタクトについてはサッカーと変わらないか、それよりも激しいと思うプレーが随所に見られました。戦術的

には、シンプルにスペースを使い、ほとんどがダイレクトかワンタッチのプレー。常にトップスピードでピッチを縦横無尽に走り周り、相手競技者に果敢にチャレンジし続ける、疲れる前に交代する。フィジカルとスピードは日本も負けておらず、Fリーグを中心とした代表選手でしたが、日本のレベルはここまで上がったのかという気持ちになりました。結果は、29分にアルゼンチンに先制され、しばらくは攻めきれない展開でしたが、37分に何とか日本が追い付いて1対1の引き分けでした。プレーの一つ一つに会場が歓声で沸き、会場の皆様が高度なフットサルに触れた素晴らしい時間となりました。運営としては、JFA主導のもと、HKFAと十勝FA様と連携しながら短い時間で良く作り上げた運営という印象です。個人的には、ピッチのライン引き作業だけでほぼ5時間を費やし、ミリ単位で調整しながら何度もやり直してラインを引いたことは忘れられません。結局は人の感覚で引いたラインが一番真っ直ぐでした。また近いうちに北海道でフットサル日本代表戦が開催されるように働きかけていきたいと考えます。

今後の北海道におけるフットサル競技の展望について、今の私の考えを述べさせていただきます。私が競技を始めた40年前、北海道のフットサル(当時は、サロンフットボール)は日本のトップでした。しかしながら、Fリーグが創設された2007年以降は、そもそも人口が多いこと、施設の増加に伴いフットサル専門チームの増加したこと等により、どうしても競技人口が多い関東関西に年々押されている印象です。



©JFA

そんな中でも4種と3種の年代のチームは全国大会でも良い結果を残して活躍してくれています。今現在、フットサルを楽しんで真剣に取り組んでいる選手とチームが大切なことは言うまでもありませんが、キッズから繋がる育成年代で男女を問わずこれからフットボールを好きになってくれる子供達を普及・育成していくことが今後のフットサルにとって必要と考えています。そしてそれは、札幌圏に限らず北海道各地域で広く普及していくべきと考えています。フットサルのメリットの一つとして、5人でチームが作れることがあります。なかなか11人はそろわないけど、フットサルであれば5人でチームとして参加できる大会もあると思います。どんどん手軽に参加してプレーできる機会を創設していきたいと考えます。

また、サッカーもフットサルもお互いに北海道のフットボールには無くてはならないと考えます。私は、強い北海道フットボールを築き上げる為にサッカーと共存しながら、お互いの競技で年間を通じて選手・技術・審判・運営が研鑽していけたら良いと考えています。

フットサルの技術の中には、サッカー競技でも役に立つ技術が多く存在します。最近、サッカーの日本代表戦を観ても部分的にはフットサルと共通する戦術もあります。先日、JFAフットサルテクニカルダイレクター小西鉄平氏から、森保監督ほか日本代表スタッフに対して木暮監督がフットサル戦術をレクチャーされたとうかがいました。サッカー日本代表もフットサルを参考にされているようです。

環境改善について、HKFAは地域協会として9地域と繋がっています。他地域の良いものは真似して取り入れ、やってみてダメだったら元に戻す。そんな考え方で皆様から「こうしたら良くなる」というご意見を聴きながら取り組んでいきたいと思えます。

最後に、いつか後輩達が日本のトップであった頃の強い北海道のフットサルを取り戻してくれることを期待しております。

【審判委員会】

審判委員会の取組みについて



審判委員会 委員長 藤井 陽一

審判委員会では、「サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する」という JFA の理念を念頭にし、JFA 審判委員会が掲げています「全てのサッカーファミリーが「フェアで、安心・安全な試合」を楽しめるように、審判員の育成と、競技規則とその精神の理解・浸透を行う。」というミッションを基本に置き、(公財)北海道サッカー協会の目標の一つである「審判員の養成と質のレベルアップ」に向け、「強化」、「育成」、「指導者」、「女子」、「フットサル」の各部会を設置し、次のような取組みを行っています。

【強化部】

北海道サッカー競技全体の底上げを図るため、一つは、将来サッカー1級審判員として活躍できる審判員、もう一つは、北海道のトップレフェリーとして、道内のトップレベルの試合を担当できる技量を兼ね備えた審判員の育成強化を目指し、強化指定審判員制度を設け、北海道サッカーリーグ、北海道学生1部リーグなどでの実践経験の積み重ねと試合後の振り返りを始め、毎月のオンライン研修会、年1回の集合研修会、年数回のフィジカルトレーニング会を実施しています。北海道学生サッカー連盟審判委員会、北海道レフェリーアカデミー事業から審判活動に情熱を持つ若い審判員が多く現れてきています。昨年度も1級審判員を輩出することができましたので、今後も取り組んでいきます。

【育成部】

北海道内で開催される各種大会において活躍するサッカー審判員の育成を計るとともに、各地区審判委員会より選出された2級審判員候補者を、講習会を通して2級審判員として認定する事業を通して、「各地区、各ブロックの主要大会、全道大会等、大会の運営に関わることができる楽しさ」、「全道の審判仲間と出会える楽しさ」、「サッカーをより深く理解できる楽しさ」を重点的に審判員に伝えていく活動を行っています。今年度はユース審判員の育成にも力を入れ、審判という形で将来にわたって北海道のサッカーに関わってもらえる仲間を増やしていきます。

【指導者部】

審判員の育成・普及には審判指導者の質を高める必要があるということで、今年度からサッカー1級審判インストラクターと2級審判インストラクターの資格更新がポイント制となり、学びの機会を増やす指導者改革が始まりました。2026年4月からはサッカー3級審判インストラクターも同様の制度となります。私たちが目指す、審判員の強化、育成、そして審判仲間を増やすためには審判指導者の方々は大変必要な存在となってきます。

【女子部】

女子サッカーを文化にするための一助となれるよう、北海道の女子審判員と審判員指導者の普及・発展に努め、日本および北海道内で活躍するための資質・能力を育成

します。審判委員会としては、道内で開催される女子サッカーの試合は、全て女性審判員で対応できることを将来の目標とし、昨年度、数年ぶりに女性の1級審判員を輩出することができましたので、今後も全国で活躍できる女性審判員の育成強化にも取り組んでいきたいと思ひます。また、現在、Jリーグで活躍している手代木直美さんのように、男子の試合でも活躍できる女性審判員がまた一人でも道内から輩出できるようになっていくことを願っています。北海道サッカー協会が掲げる「女子サッカーの環境整備と発展」という目標に向かって、女子審判員の発掘並びに育成に努めていきたいと考えており、今年度もいくつかの地区協会と連携し女子審判員研修会の開催を計画しています。加えて、女性の審判指導者の育成にも努め、女性審判員が日頃からアドバイスを受けられる体制の構築も目指していきたいと思ひます。

【フットサル部】

全国的に見てもフットサル審判員の登録者数は多い状況にあります。冬場のフットサルの審判活動を行うため、サッカー審判員と兼ねて登録している方が多く、実際、夏場のフットサルの試合で活動できる審判員は決して多くない状況にあります。フットサルの競技力と環境整備の向上

のためには、オールシーズンで活動できるフットサル審判員の普及育成は必要であります。また、現在Fリーグで活躍しているフットサル1級審判員と同じく、日本のトップリーグ等で活躍できる若い審判員の育成強化も必要でありますので、新たなフットサル1級審判員を輩出できるように努力していきたいと考えています。

以上のとおり、関係する方々の協力をいただき各部の取組みによって明るい兆しが見えていることも多くありますが、まだまだ課題も多く、行うべきことは多岐にわたっています。審判員は試合の中で運営面、安全面で大きな役割を担っており、フットサルを含めて、北海道のサッカーファミリー全員が試合を楽しめるために審判員の育成は必須であり、全ての方々に対して競技規則とその精神の理解・浸透を行うことも必要と考えています。

それと合わせて、審判活動を通して大好きなサッカー、フットサルを楽しめることを伝えていきたいと思ひます。

今後も北海道のサッカー・フットサルの発展のために、皆様と共にひとつずつ実現していきたいと考えています。引き続き審判委員会への取組みにご理解とご協力を賜りますよう、お願いいたします。

JFA審判委員会のミッション

全てのサッカーファミリーが「フェアで、安心・安全な試合」を楽しめるように、審判員の育成と、競技規則とその精神の理解・浸透を行う。

審判委員会のビジョン2030

普及

すべての選手が試合をプレーできるように、審判員を育成する。

育成強化

グラスルーツからトップリーグまで、すべてのカテゴリーで審判員がレベルアップする。

競技規則の浸透

サッカーに触れるすべての人々へ、競技規則および競技の精神の理解・浸透をはかる。

環境の整備

審判員が審判活動を楽しめるために、審判活動を継続的かつ適切に行える環境を整備する。

トップ審判員の輩出

世界のトップレベルで活躍する審判員を継続的に輩出する。

【一般社団法人札幌地区サッカー協会】

2023年度の状況と2024年度の重点



一般社団法人札幌地区サッカー協会 専務理事 今枝 映人

2023年のシーズンにつきまして、皆様の理解とご協力を賜りまして、誠にありがとうございました。創立90周年となる2023シーズンは、「札幌地区フットボール100周年に向けた環境の土台づくり～Road to 2033～」とスローガンを掲げ、10年後の札幌地区のフットボール環境をより良い姿を具体化する一年として事業を推進してまいりました。キッズや女子、3種では90周年記念の冠を掲げたイベントを開催させていただきました。さて、2023年度登録(サッカー)の最終状況は、団体登録数460チーム、選手登録数12,956名と、昨年度に比べると6チーム減少しましたが、選手登録数は1名の増加と

なりました。具体的には3種、4種チームの減少が多く見られ、中体連チームの合同化や廃部が進んでいるように考えられます。しかし選手数でいえば3種、4種の選手数が昨年度よりも増加しています。ここまで続けてきた普及事業として「安心・安全にフットボールを楽しめる環境づくり」を進めてきた成果が現れてきていると考えられます。2024シーズンは、安心安全なフットボール環境を提供することはもとより、さらにフットボールに関わる情報発信に努めてまいります。今後も引き続き札幌地区のフットボール環境の向上のため、皆様の理解とご協力を何卒宜しくお願い致します。

第64回 札幌市民スポーツ大会 中学生の部



第64回 札幌市民スポーツ大会 一般の部



札幌地区 U15 レディース・U12 ガールズ サッカー交流会 (90周年記念 参加賞をプレゼント！)



2024年度 運営方針 【 運営の重点 】

1 フットボール環境づくり

- (1) 札幌地区フットボールに関わる情報発信
(大会や研修会、講習会、イベント等をHPやSNSでの情報発信、ホームページの新規更新)
- (2) 安心安全な事業の開催(感染症対策を含む緊急時を想定した運営体制づくり)

2 普及拡大事業

- (1) 年間を通じてフットボールを身近に楽しめる環境づくり(サッカー・フットサル)
重点事業 (キッズ大集合・女子イベント・ゆめカップ・プロチームとの連携事業)
- (2) 女子チーム・シニア新規チームの創出

3 技術力向上事業

- (1) クラブ・マッチウェルフェアオフィサーの養成研修会の実施(ウェルフェアオフィサー制度の活用)
- (2) トレセン活動・指導者養成・審判員養成の充実

4 協会組織づくり

- (1) 事務局業務の構造改革(常勤理事の配置を継続、会計業務の効率化)
- (2) 理事会、事務局、各委員会の活性化 (働き方改革、後継者育成、新人登用)
- (3) 定款の見直し (女性理事・外部理事・定年制の検討)
- (4) 規定集の編纂 (HKFA 規定活用の検討)
- (5) マーケティング (自立運営の戦略検討)

サッカーキッズ大集合！！ in SSAP



JFA なでしこひろば



運営協力：札幌大学女子サッカー部 ヴィスタ の皆様

【小樽地区サッカー協会】

小樽地区サッカー協会の現状と今後の展望



小樽地区サッカー協会 理事長 柴田 靖士

小樽地区(後志管内)の各市町村では人口減に歯止めがかからず、特に、令和5年度の小樽市の出生数は2年連続400人を下回るなど、各市町村とも少子化が加速している。その影響により、休部や廃部、解団をするチームが毎年現れている状況である。また、合同チームで大会に参加をし、何とか活動を継続している2種・3種チームもある。その他、種別が上がるにつれ選手の登録数が減少し、各種別間のスムーズな移行も課題となっている。昨年度より小樽市では部活動の「拠点化」を進め、将来的な地域移行を視野に入れた部活動編成が行われている。その結果、サッカー部が通学している学校にない生徒も拠点の学校のサッカー部に所属し活動できるようになった。しかし、その他の町村では、広域にわたる合同チーム編成で何とかサッカーができる環境を繋いでいる面もある。サッカーを含めた各競技団体が連携し、グラスルーツからシニアまでスポーツに親しめる環境づくりが急務となっている。



全国大会出場 北照高等学校サッカー部

北海道大会の大舞台で、小樽地区の代表として素晴らしい活躍をしているチームが毎年出ている。特に昨年度は、2種年代の北照高等学校サッカー部が「JFA 全日本 U-18 フットサル選手権大会」に、3種年代の Regaris 小樽 U-15

が「JFA 全日本 U-15 フットサル選手権大会」に出場し、全国大会で大いに力を発揮した。また、各リーグでは、CANALE 小樽が道内最高峰の北海道サッカーリーグに、北照高等学校サッカー部がプリンスリーグ北海道に、Regaris 小樽 U-15が北海道カブスリーグ(2部)に、そして、女子の北照高等学校女子サッカー部が北海道女子サッカーリーグに、小樽 Corsario が北海道女子 U-15 リーグ(2部)に昇格し、現在、北海道の各トップリーグに新規参入し躍動している。



全国大会出場 Regaris 小樽 U-15

審判委員会では、月に1回、オンラインで審判スキルアップ研修会を行っている。若手からベテランまで意欲ある審判員が参加しレベルアップを図っている。また、ユース審判員の育成・強化を目的とした小樽地区レフェリーアカデミー(小樽 RAC)に U-18 審判員3名が参加をし、3級審判資格を全員が取得した。今後も早期に若手3級審判員を育成していきたい。

技術委員会では、トレセン活動が通常に行われるようになり各種で実施している。その中で、北海道トレセンのプログラムに選出される選手も出てきている。また、指導者養成として、上級ライセンス取得に挑戦するトレセン指導者

のサポートや、D級ライセンス取得の機会をつくり、全国や北海道で活躍する選手の育成・強化の他、若手指導者の発掘・養成をしていきたい。

キッズ委員会では、キッズフェスティバルを2回行い、各回、総勢150名ほどの子どもたちや保護者、スタッフが参加しサッカーを通じて身体を動かすことの楽しさを伝えることができた。また、幼稚園や保育園への巡回指導を9園で14回行い、のべ300名ほどの子どもたちがサッカーを楽しみ、スタッフは笑顔溢れる子どもたちからエネルギーをもらい実りある活動を行うことができた。キッズリーダー養成講習会には3名の保育士が受講をした。今後は4種委員会や技術委員会、女子委員会とも連携し、更に普及育成を目指したい。



幼稚園・保育園巡回指導



キッズサッカーフェスティバル

後志管内出身選手では、菅大輝選手(北海道コンサドーレ札幌)、山谷瑠香選手(アルビレックス新潟レディース)、池高暢希選手(沖縄SV)、加藤蓮選手(横浜F・マリノス)が現在、国内最高峰の舞台で活躍している。更なる躍進を期待したい。

昨年11月、創立90周年記念式典・祝賀会をニュー三幸小樽店にて開催した。ご来賓を含め、約80名の皆様にご出席をいただき、盛会に終えることができた。祝福をしていただきました北海道サッカー協会はじめ、15地区協会、各スポーツ競技団体の皆様に感謝申し上げます。また、記念事業として10月にサッカーフェスティバルを開催し、小学生からシニアまで多くの小樽地区サッカーファミリーが参加した。秋晴れの中、前段には毎年行っている「芝を大切に作るボランティア」も行い、子どもから大人までサッカーに親しむ2日間となった。



創立90周年記念 功労者表彰



創立90周年記念事業サッカーフェスティバル

最後に、幼児から大人までサッカーを楽しめる環境づくりや、現存の施設の有効活用、グラスルーツからのサッカーファミリー拡大、サッカー・フットサルのリーグ戦環境の向上、各種別委員会や審判・技術委員会との協調に力を入れ取り組んでいきたい。創立90周年を経た今、10年後の100年を見据え、協会一丸となって更に前進できるよう取り組んでいきたい。

2024年度 小樽地区サッカー協会役員

役職	氏名	担務
会長	前田 和男	
副会長	佐々木 義光	
副会長	前田 孝一	1種(社会人・大学)担当
副会長	渡邊 均	2種・技術担当
副会長	本田 亨	検校・リスペクト委員長、4種・シニア担当
理事長	柴田 靖士	総務委員長、3種・審判・FS担当
副理事長	新川 智憲	Web担当
副理事長	中川 綾子	女子担当(HKFA女子委員長)
事務局長	永坂 正	シニア委員長、キッズ担当
常任理事	吉村 充	審判委員長
常任理事	山中 貴司	技術委員長
常任理事	片山 悟	1種(社会人)委員長
常任理事	堀内 心香	1種(大学)委員長
常任理事	宮澤 正行	2種委員長
常任理事	渡辺 司	3種委員長
常任理事	當宮 行博	4種委員長
常任理事	梶原 康裕	女子委員長
常任理事	長名 真三雄	フットサル委員長
常任理事	吉村 英康	キッズ委員長
常任理事	三名木 泰彦	医学委員長
顧問	中村 岩雄	
顧問	鈴木 正三	
顧問	須田 尚見	
会計監査	福田 聖三	
会計監査	馬場 品	

【北海道社会人サッカー連盟】

新しい運営の在り方の模索



北海道社会人サッカー連盟 理事長 大橋 穰

平素より本連盟の活動に際し格別のご高配を賜り御礼申し上げます。

本年4月から、北海道社会人サッカー連盟の理事長を拝命しました。きちんと調べてはいないのですが、連盟の長い歴史の中で札幌圏以外の者が理事長職に就いたのは、おそらく初めてではないのではと思います。自分勝手な思いなのかもしれませんが、良くも悪くもコロナの影響により、今では当たり前になったリモートによる会議等の普及が首都圏と遠隔地の距離を縮めた事が大きかったのではと思います。

もちろん、リモートですべてが片付けられるわけではなく、いろいろな方のサポートがあって、業務が円滑に進められていると感じております。前任の八島さん、事務局の吹上さん、川口さんには本当にお世話をかけていると日々反省しております。しかしながら、札幌圏以外の人間が要職に就いても、きちんと連盟の運営ができるってことを実証する事が、北海道のサッカー界における、これからの新しいスタイルになればと思います。

広い北海道ですが、サッカーに対する思いや情熱はどこにいても変わることはないと思ので、社会人連盟の新たな取り組みが各カテゴリーへのロールモデルになればと思います。

まとまりのない話になってしまいましたが、今後とも社会

人連盟の活動に対して、ご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくをお願いいたします。

第30回全国クラブチームサッカー選手権大会

主 催 公益財団法人日本サッカー協会・一般財団法人全国社会人サッカー連盟
主 管 公益財団法人北海道サッカー協会、北海道社会人サッカー連盟、
一般社団法人十勝地区サッカー協会
後 援 共同通信社、北海道新聞社
開 催 日 2023年9月30日(土)～10月3日(火)
試合会場 幕別町運動公園陸上競技場
帯広の森球技場



各種委員会の取り組み

第1種委員会 / 第3種委員会
第4種委員会 / 女子委員会 / キッズ委員会
シニア委員会 / 技術委員会 / 医学委員会



【第1種委員会】

1種委員会の現状と取り組みについて



第1種委員会 委員長 高木 真一

第1種委員会は社会人・大学・高専・専門学校・自治体・自衛隊各関係連盟及び関連委員会のご協力の元、2023年度の各種事業を終了することが出来ました。

第1種所属各連盟主催の全道大会は、道内各連盟・協会関係者のご尽力と参加選手、チームスタッフの熱意により、どの大会も活気のある有意義な大会となっております。全国大会においては、全国社会人サッカー選手権大会で北海道十勝スカイアースが2回戦進出、全国自治体職員サッカー選手権で函館市役所が2回戦進出の成績を収めております。

また、第1種内の各種別においても、全国の強豪との対戦を経験すること競技レベルの向上が認められており、2024年度は全国上位の成績を収めることを期待しています。

また、種別内のチームからJリーグチームへの入団者もおります。

登録チーム数及び全道大会参加チーム数の減少等、第1種を取り巻く環境は厳しさが続いておりますが、2024年度においても所属各連盟で問題点を共有しながら、サッカーを楽しむ続けることを忘れずに競技力及び大会運営能力の向上に向けて努力していきたいと思っております。

【第3種委員会】

プレイヤーズファーストの観点から



第3種委員会 委員長 大石橋 計幸

日頃より第3種委員会の事業にご理解とご協力を賜り、感謝申し上げます。

北海道、ブロック、地区カブスという各リーグ戦において、2nd や 3rd チームを編成して出場する場合、一部選手の年間出場時間が著しく短くなる可能性もあった、同日連日における他リーグへの出場制限規程を見直したのち開幕した今シーズンです。大所帯チームの指導者の皆様には、一定の評価をしていただいているものと自負しております。

一方で、サッカーに限らず、多くの中学校の部活動は、部員数が急減し、部活動地域移行、地域クラブ化、拠点校方式といった言葉を頻繁に目に、耳にする時代となりました。

道内にも先駆的な取組を展開されている市町村が数多くありますので、その情報を積極的に収集、展開し、プレイヤーズファーストの観点が欠落しないよう、中学生年代のより良いサッカー環境の構築に努めてまいります。

【第4種委員会】

たくさんの方々とのつながりに感謝！



第4種委員会 委員長 佐賀 主昌

4種委員長を仰せつかった4年前。新型コロナウイルス感染症の対応からのスタートでした。判断や決断を迫られることも多くありましたが、たくさんの皆様から御指導・御助言をいただき乗り越えることができました。このことをはじめとして、この4年間、大会会場で、オンラインで、メールやお電話で、4種関係者をはじめ、北海道・全国のサッカーに携わっているたくさんの方々とお話をさせていただきました。そうした多くの方々つながることができたことが、自分の人生にとって大きな財産になったと感謝しております。何か大きなことを成すためには、人と人のつながり、協力は不可欠です。関係の皆様におかれましては、北海道サッカーの発展のためにも「つながり」を大切に、それぞれのお立場で引き続き御活躍いただければと思っております。委員長としては、至らない点も多く、御迷惑ばかりおかけしたことをこの場でお詫びさせていただきます。4種委員長という立場から離れますが、北海道の少年サッカーの充実、サッカーファミリー拡大という熱い思いは、持ち続けるつもりです！4年間、お世話になりました。そして、ありがとうございました。

【女子委員会】

女子委員会の取り組みについて



女子委員会 委員長 中川 綾子

女子委員会では北海道女子リーグを筆頭に各リーグ戦、全国大会予選北海道大会を各地区協会の皆様のご協力の下、実施しています。

また普及の大会である北海道レディースエイトリーグや道新カップ北海道女子8人制サッカー大会も実施していますが、参加チームは増加傾向です。しかし年代別の大会については新規のチームができる一方で、人数不足などで出場できなくなったり、合同チームを編成したりするチームも出てきています。

大会運営以外の活動として、2023年度のJFA女子サッカーデーでは「北海道女子チーム一覧」に加え、「PASS TO THE FUTURE～北海道のフットボールを支える女性たち」第2弾を作成しました。また「挑戦しつづけること、成長への鍵～二人の女性国際審判員に学ぶ」と題して手代木直美氏と大岩真由美氏にオンライン講演会でご講演いただきました。プレーする機会の提供とあわせて、情報共有の機会提供にも積極的に取り組んでいきたいと思っております。

【キッズ委員会】

キッズに関わる人たちへ



キッズ委員会 委員長 遠藤 祥悦

いつもキッズの活動に対してご理解ご協力いただきありがとうございます。

キッズリーダー養成、JFA キッズサッカーフェスティバル、幼稚園、保育園への巡回指導の3つの柱を基本に活動しています。特に今年度からはキッズ巡回指導に力を入れ、多くの子供たちにスポーツする楽しさやサッカーの楽しさをたくさん伝えていく目的として活動しています。今は少子化が進んでいる中、外でも内でも元気に遊び回る子供たちのためにたくさんの園へ巡回指導をしていきたいと思っています。キッズリーダーを習得された学生さん、保護者の皆さん、コーチなどの方には、様々な場面で活躍されていることに感謝申し上げると同時に、今後も継続して子供たちにために汗をかいていただければと思っています。そして、インストラクターやキッズに関わるすべての人たちには、常に子供たちの安心安全を確保しながら、楽しくキッズと関わって欲しいと思っています。そして指導者は、参加者、保護者の手本となるような取り組みの実施も考えて、子供たちへの指導をお願いしたいと思っています。

すべてのキッズサッカーに関わる人たちが共通理解しながら、「もっとサッカーを指導してみたい」や「もっとサッカーがしたい」という気持ちになるような環境作りを皆さんで頑張って作り上げていきましょう。

最後に大好きな言葉ですが、「学ぶことを止めた者は、教えることを止めなければならない」ロジェ・ルメールさんの言葉です。常にこの言葉を思い出しながら、子供たちの笑顔のために活動して欲しいと考えています。

引き続き、キッズ委員会の活動にご理解、ご協力をお願いします。

【シニア委員会】

シニア種の現状と今後について



シニア委員会 委員長 佐藤 英隆

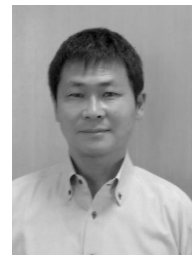
シニア委員会及びシニア連盟では、全国大会予選となる真剣勝負の全道大会やサッカーを楽しみ親睦を深める大会など、競技志向に応じて大会の企画・運営を行っており、2023年度は全事業を予定通り実施することができました。特筆事項として、2023年度 JFA 第11回全日本 O-40 サッカー大会において、北海道オッサンドーレ札幌40が準優勝という輝かしい成績を収めました。

シニア種の登録状況は、JFA がシニア種登録を開始した2000年に11チーム・340名でスタートしたのち、増加の一途をたどり、2024年度6月17日時点で132チーム・2800名程度となっています。

サッカーが生涯スポーツと言われて久しく、シニア種の活動領域がより一層広がることが予想されるため、シニア部門のサッカー環境を充実させ持続可能な体制とする必要があると考えています。そのため、①10年後のシニア種のあり方、②シニアカテゴリーの普及(サッカー継続者だけでなく、特にサッカー再開者など)、③女子部門との連携、④審判スキルの向上及び資格保持者の増強、⑤道外地域との交流などを当面の課題と考え、少人数のワーキンググループ制の勉強会をシニア連盟内で実施しているところです。

【技術委員会】

北海道フットボールカンファレンスから



技術委員会 委員長 上田 充士

今年1月に実施した15回目となる今回は、今後2年間のテーマとして「北海道内のサッカー環境の再構築を図る」～指導者養成・普及活動を通して～を掲げました。少子化や人口減の中でも、希望する人すべてにサッカーができる環境を整えるには、仕組みづくりと指導の両方に創造性をもって取り組める人材の養成が鍵となると考えています。講演では、千葉県で女子のオルカ鴨川を1から立ち上げ、普及・育成・強化の取組を地域密着で継続し、なでしこ1部リーグ優勝という結果も出した本道出身のGMである北本綾子さんから、特に多くの刺激を受けました。

今後も、ユースダイレクターを中心に各地区やブロックの取組を充実させ、キッズや小学校低学年を中心としたスモールサイドゲームの普及などに、各委員会や地区協会の皆さんとともに取り組みたいと考えています。

【医学委員会】

医学委員会活動報告



医学委員会 委員長 神谷 智昭

医学委員会ではこれまで同様、トレセン活動におけるメディカルサポートを行ってきました。選手のサポートを目的として実施していますが、メディカルスタッフの育成も重要と考えています。北海道独自のメディカルスタッフ育成システムを構築できるように、委員会として活動をしています。

また選手・指導者・審判・観客の命を守るため、JFAスポーツ救命ライセンス講習会の開催にも力を入れています。現在は北海道内のスタッフのみで開催できるようになりました。サッカーの現場で命を落とさないために、教育・啓発を継続していきます。

JFAの医学委員と連携し、世界基準でアンチドーピング活動、栄養指導などの活動を行っています。今後も連携を強化しつつ、北海道から世界に発信できる研究・サポート体制を整えていきたいと思っています。

15地区サッカー協会

函館地区 / 空知地区 / 旭川地区 / 釧路地区
(一社)十勝地区 / 室蘭地区 / 苫小牧地区 / 北空知地区
千歳地区 / 道北地区 / オホーツク地区 / 根室地区 / 宗谷地区



【函館地区】

地区の現状と今後の展望・取組



函館地区サッカー協会 理事長 深澤 昌明

2024年度には役員改選があり、4月27日の総会では会長、副会長を再任し、理事長には新しく深澤昌明が就任いたしました。また、各種別委員会や専門委員会でも新しい体制で、2024年度がスタートいたしました。世代交代も進めながら、持続的・継続的な地区協会運営を行い、協会に関わる全ての皆さんが気持ちよく、楽しくサッカーに触れられるよう努力してまいります。

さて、新型コロナなど様々な感染症の対策から共存という時代の変化の中で、協会としても、以前に戻るというだけではなく、過去の良き伝統を生かしながら新しい色を付け、サッカーが楽しい、素晴らしいと思われるスポーツにしていく必要があると感じています。そのためには、協会理事だけではなく、協会を支えてくださる選手、審判員、指導者など多くの関係者との協力と、協会を外から支えてくださる方々との関係をよりよいものとしていく必要があると思います。現在、函館地区サッカー協会は任意団体の協会と一般社団法人の二つの運営を行っています。社団法人は函館市の指定管理業務を主とした収益事業に特化していますが近い将来は任意団体を解散して非営利業務の二本立てによる社団法人の運営を行います。現在、事務所を構えていますが専従員が不在の為、個人ボランティアにより支えら

れています。近い将来は事務職員の雇用も視野に入れ活動の幅を広げたいと考えております。昨今のサッカーを取り巻く状況から、今までのようにボランティアだけで運営することの限界も感じております。次に大きな事業として「函館フットボールパーク」の受託運営があります。2025年度からの新たな5年間の指定管理に向け内容を精査し協会としてサッカーファミリーの拡充・充実を目指し進めているところであります。また、女子及びキッズ世代の普及事業についても委員会を中心に進め、地区としての盛り上がりを計画・実践する段階にあると思います。

現在、地区としての一の問題は登録チーム及び登録選手数の減少です。この10年を見ますとチームは1割減、選手については半数近くまで落ち込んでいます。渡島・檜山管内の人口減少も要因の一つですが、サッカーを続けたい、楽しみたいという方々が減ってきていることも原因の一つではないかと思っております。今後は地区協会としてサッカーをより魅力のある市民スポーツにすることが課せられているのではないかと考え、近隣他地区協会とも連携を図りながら地区におけるサッカーの魅力を広げること、これを一番の目標として進めて参りたいと思います。

【空知地区】

空知地区の現状について



空知地区サッカー協会 理事長 磯辺 正道

サッカーは世界で最も人気のあるスポーツ競技だと思えます。様々な国や地域、年齢や性別を問わず多くの人々がプレイや観戦を楽しんでいます。FIFA ワールドカップをはじめとする大会は世界中で愛されています。サッカー界でも近年は、人口減少に伴い急速な少子化から競技人口の減少(男性はピーク時の約半数以下に減少、女性は約5倍に増加とのデータです)特に小学生年代が顕著に減っていることが上げられると思います。

空知地区でも同様に人口減少からの少子化が進んでおり懸案事項として問題視されている現状です。これらを鑑み取り組みとして、岩見沢 FC(3種)による部活動の拠点校方式が2年目を迎えております。サッカーを競技としてだけでなく楽しむスポーツとして活動するカテゴリーを設立して、トップチーム(道央カブス)、セカンドチーム(地区カブス)、サードチーム(U-13 道カブス3部)が各カテゴリー別に大会エントリーし拮抗したゲームができる環境を整えています。



川澄奈穂美さんサッカー教室



なでしこサッカースクール

明るい話題としては、女性の競技人口の増加傾向は空知地区においても同様と考えられます。中学女子サッカーチーム岩見沢 FC ルファヴェニールは5年目を迎え地域を代表するチームとして継続的に活躍しています。小学生低学年の女子選手を中心に活動している「なでしこサッカースクール」には、年中～小学生の選手たち近年活発な女子トレセンの選手や中学生といった幅広い選手が参加していることから、連携の強化と普及啓発など地道な取り組みからの賜物と言えます。今年度から日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会の一部運営を夕張・栗山にて開催致します。協会一同、微力ながら準備・研鑽する所存でございますのでご支援くださいますようお願い申し上げます。

最後に審判員委員会では、道内最年少の22歳でサッカー1級審判員になった大村美詞さん、北海道サッカー協会審判委員長の藤井陽一さんは、1級審判員として15年に渡りサッカー界の第一線で活躍されて昨年惜しまれながら引退されました。お二人とも空知サッカー協会の誇りであり大きな希望と感じております。

【旭川地区】

旭川地区サッカー協会の現状と課題



旭川地区サッカー協会 理事長 對馬 紀一

2023年は、日本最高峰の高校年代の大会であるプレミアリーグに旭川実業が参戦と、期待に胸膨らませるスタートとなりました。しかし、7月には、永きにわたり旭川地区サッカー協회를牽引して下さった太田会長・荻原副会長。そして、翌2月には、古高副会長の訃報に接し、悲しみとともに、亡き三氏の残して下さったサッカーに対する想いを引き継いでいかなければならないという強い決意を持つことができました。

中村新体制のもと臨んだ一つ目の事業は、令和5年度全国高等学校総合体育大会サッカー競技大会〔男子〕(7/28～8/4)。北海道第1代表としてこの大会に臨んだ地元旭川実業。北海道勢としては唯一、三回戦に進出するも強豪市立船橋に惜敗し涙をのんだ。その後、多くの熱戦が繰り広げられ、花咲陸上競技場において、明秀日立と桐光学園の迫力ある決勝戦で幕を閉じた。成功裏のうちに終えることができたのも2種(高校)委員会の指導者・選手のみなさんと地元自治体である旭川市の力が大きかったものと考えます。これほど大きな大会は、2015年の全国自治体職員サッカー選手権大会以来であり、旭川地区サッカー協会の底力を見たと言えるでしょう。また、花咲陸上競技場での大会開催は、今年の高校総体のために行われたプレミア等の試合を除けば、1996/6/2、コンサドーレ札幌がJFLにおいて、ヴィッセル神戸と対戦し、アルシンドとペレイラが得点し勝利した試合以来となります。今後、旭川地区においても大きな大会が開催できる会場の確保を目指し、力を尽くさなければならぬ状況にあることを再確認

させられました。これは旭川地区サッカー協会が抱える大きな課題となります。

8/26～27、旭川市と姉妹都市である韓国水原市との相互交流「日韓親善少年サッカー交流事業」が4年ぶりに東光スポーツ公園にて行われました。これは、コロナ禍の終息を意味し、前向きの気持ちを育む出来事でした。これを契機として、冬のクリスマスパーティー(12/11)を4年ぶりに開催し、268名もの参加者を得て、盛況のうちに終えることができました。皆さんの温かさに触れ、より一層力を尽くしていこうと決意を新たにしました。

11月9日～11月18日、ブラジルで『ろう者フットサル世界選手権大会(デフフットサルワールドカップ2023)』において旭川出身の野寺風吹氏の得点で勝利し、銅メダルを獲得したことは、大変嬉しいニュースであり、多くの選手に夢と希望を与えてくれました。先日の道協会における表彰では、代理出席された北海道ろうサッカー協会の皆さんの笑顔を見て、このような交流はとても素晴らしいものだと感じました。

10月には、天然会場の整備ボランティアに、766名の参加を得て行うことができました。それでもまだ、「花咲球技場の改修」「東光スポーツ公園におけるアリーナの建設」、「花咲陸上競技場の改修」や「旭川市総合体育館の建て替え」などまだまだ解決しなければならないものが多く存在します。これからも、サッカーを楽しくプレーするための環境整備のためにできることを一つ一つ取り組んでいきたいと思っております。

【釧路地区】

2023 年度の釧路地区サッカー協会



釧路地区サッカー協会 理事長 八城 雅彦

2023年5月に新型コロナウイルスが2類から5類に移行され、ようやく通常の生活が戻ると同時に、サッカー大会も以前の運営ができるようになりました。

一種は、社会人サッカー連盟が市内リーグ、各種大会を積極的に運営しています。近年は不況等の影響もありチーム数がやや減少傾向にあり、ピーク時には50チーム程度であったことを鑑みると、30～40代のシニア世代の発掘が肝要かと思われます。

二種高校世代は、従来の春季フェスティバルを高体連のシード大会へと改め、平成20年度から開始したU-18のリーグ戦もスタッフの努力により試合数が増え、選手諸君の励みとなっています。

三種中学年代は、平成20年度から開始した前期、後期の長期リーグ戦を導入し、実力が拮抗した試合が展開されています。中体連のトーナメント戦、フットサル大会(U-15・U-14・U-13)などの大会と合わせ、軌道に乗っています。

四種少年世代は、短いサッカーシーズンに多くの大会が開

催されていますが、運営に関わる総務部、審判部、技術部の各委員会を設け、スムーズな大会運営、各指導者の協力体制作り、審判技術の向上、指導技術の向上が図られています。また、現在進行中の少子化対策として、キッズ年代の講習会等が本格的にスタートしています。

女子は底辺拡大のため小学女子トレセンの活動を行い、小学生から大人までサッカーを楽しめる環境となっており、JFLのチームで活躍している選手も排出しております。技術関係も管内からJリーガーを排出することを目標に熱心なトレセン活動を展開しています。

2016年度に作成した釧路地区サッカー協会マスタープラン2025の目標は、1.釧路にサッカー専用芝グラウンドをつくる。2.サッカーファミリーを1万人にする。3.釧路からプロ選手を育てる。となっています。地区協会の法人化や専用事務所の開設、指導者の育成・拡充など課題山積ではありますが、一度初心に戻って検討を加える所存でおります。

【十勝地区】

70年を目指して



一般社団法人十勝地区サッカー協会 専務理事 大橋 稔

平素より本協会の活動に際し格別のご高配を賜り御礼申し上げます。

おかげさまで、昨年度十勝地区協会は、設立60周年を迎えることができました。これもひとえに、北海道サッカー協会や各地区の皆様方のご協力のおかげと感謝しております。

60周年であった昨年は、十勝として初となる国際試合である、フットサル日本代表戦を引き受けさせていただき、関係各位のご尽力もあり、無事に実施することができたことは、今後の財産となると思います。

他にも、高体連全国大会(女子)、全国クラブチームサッカー選手権大会(1種)を実施したほか、2011年から13年間(2020年はコロナのため開催中止)十勝で開催してきた日本クラブユースサッカー選手権大会(U-15)が、2023年でひとまず最後の開催となりました。

本年においても、年明けの2025年2月に2年振りの開催となる全日本女子フットサル選手権大会をはじめ、各種の全道大会を開催する予定となっております。レベルの高い試合を、地元のサッカーファミリーに提供することで、競技力の向上やサッカー人口の増加等に繋げていくことができればと思います。

また今年度から、協会内にファミリー拡大委員会が新たに設置され、キッズ世代の競技人口拡大に向けて、様々な取り組みを行う予定です。

中体連の全国大会開催種目縮小など、スポーツ界を取り巻く環境が厳しくなっておりますが、サッカー関係者におかれましては、逆境に負けずに、引き続きサッカーの発展にご尽力いただけるようお願い申し上げます。

フットサル国際親善試合日本代表戦の様子



©JFA



©JFA

【室蘭地区】

室蘭地区の現状と展望



室蘭地区サッカー協会 理事長 橋本 誠司

令和5度の室蘭地区のサッカーとフットサルの登録数は、1月末現在で68チーム(-1)、選手1,724人(+23)でした。ここ5年間では西胆振全体の人口減や少子化の影響で登録20%(-400人)の減少が見られます。特に社会人(サッカー、フットサル)が4割近く減少し、危惧される場所です。一方、女子やシニアは登録者数を伸ばし、4種では低学年・幼児世代への普及により減少を抑えています。特に、グラスルーツ委員会では、幼稚園・保育園の巡回教室を27回開催し普及活動を推進しています。

3種では部活動地域移行に合わせて、チームの再編成やサッカー部がない学校の生徒の取り込みなどに動き始めています。「競技としてのサッカーを目指す選手」と「汗を流してサッカーを楽しむ選手」と、双方の活動の場を創出し、サッカーファミリーの拡充を進めていきたいと考えています。

このような中、全道大会優勝(6大会)・準優勝(3大会)・第3位(1大会)の活躍があり、4チームが全国大会へ駒を進めました。各チームや選手の健闘を称えと共に、指導者のご尽力に敬意を表しています。また各種委員会により良いゲーム環境の構築、技術委員会によるトレセン活

動の充実、ユース特別委員会による「GK道場」開催や「C級スタンダード」の取組等、選手育成・強化の活動が繋がっているものと考えています。

その中で、「WO特別委員会」を設け、MWO配置の推進とCWO養成講習会開催等を行いました。サッカー界における差別や暴力の予防活動を推進し、安心・安全にサッカー活動に取り組める環境作りをめざしています。

環境面では、昨春、「リーフラスフットボールパーク」がオープンし、数多くの大会や練習場所として利用されました。一方で、入江がなくなり、グラウンドが1面になったことで、遠方での大会運営も必要になり、選手や役員・審判に負担がかかったことも事実です。今後も施設整備・拡充に向けた取組をねばり強く進める必要性を感じています。

今夏は、当地区で全国インターハイ女子サッカー競技が開催されます。高体連の準備委員会に地区協会も運営協力の努力をしていきます。今後も、サッカーファミリーの支援を基盤に、新しい「むろらんフットボールカルチャー」が根付く取組をめざしていきます。

【苫小牧地区】

苫小牧地区協会の展望



苫小牧地区サッカー協会理事長 野田 篤志

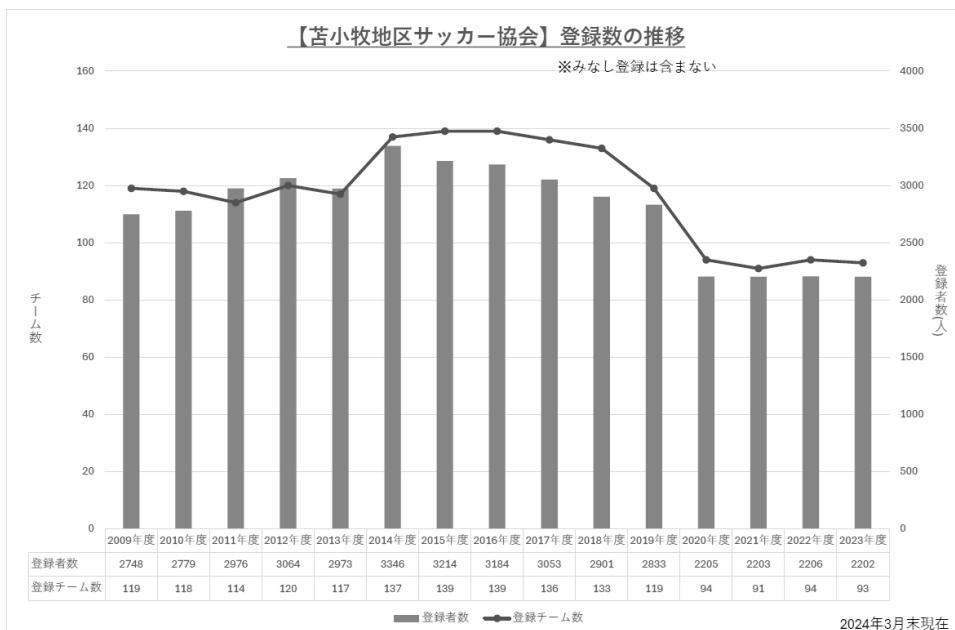
登録チーム数・選手数の拡大というよりは、いかにして現状を維持できるか？全ての地区共通の課題であり困難な課題でもあります。

当地区もコロナ期で落ち込んだ登録数のまま 4 年経過し、ほぼ横ばいの状況から抜け出せずにいます。キッズフェスやフットボールデー等のイベントも毎年行われていますが課題の抜本的な解決策には至っていないのが現状と思われます。普及育成事業の拡充、そして生涯スポーツとしてのサッカーファミリー拡充のためにも、それを支える土台となるのは私たち地区協会であり、その土台の発展なくして将来は無く基本に立ち戻り次世代につなげる協会づくりに重点を置くスタートの年とすべく今年度の活動をスター

トしたところであります。具体的には

- ①組織の流れを見直し明確な体系作りに着手
- ②30名程の常任理事の約半数に30歳台前後を抜擢し組織の若返りを図り新しい感覚で課題解決に向かう
- ③副会長を筆頭に女性理事を5名選出、今後さらにその数を増やす方向性を抱いており、その役割に重要性を持たし多角的な視点を保持。

多様化する社会の中でまずもって協会そのものの体質の強化を図ることで次世代を担う人材作りこそがサッカーファミリーの拡大につながることに信じ2024年度がきっかけの年となるよう邁進してまいります。



【北空知地区】

活動の成果と今後の課題について



北空知地区サッカー協会 理事長 鈴木 敏之

2023年度の活動と、今後の課題を紹介いたします。

1種のサッカーにおきましては、道北ブロックリーグに参加が1チーム、地区リーグに参加が5チームとなっており、なかなか登録チームが増えない現状であります。また、フットサルにおきましては、10チームの参加があり、サッカーに比べるとフットサル登録の方が多く、フットサルの方が比較的参加しやすいのかと思われます。

全道大会の主管についてですが、前年度に引き続き全道シニアフットサルオープン大会を開催しました。

各世代合計32チームの参加をいただき、また女子チームの参加もあり、盛会裏に終了することができました。

2種についてですが、登録が2チームと寂しい状況です。そんな中、8月には昨年に引き続き北空知サッカーフェスティバルを開催し、3日間で延べ48チームの参加をいただいております。

3種についてですが、こちらも厳しい状況となっております。

すが、少ない登録チームの中でも、多くの選手が試合に出場できる機会を設けながら、大会運営を行っております。

4種についてですが、登録が8チームで、大会開催数は1番多くなってはおりますが、少子化と新型コロナウイルスによる活動自粛の影響が大きく、低学年の登録選手数が減少となっており、キッズ活動の拡充が喫緊の課題となっております。また、各チームの選手数のバラツキが大きく、なかなか拮抗した試合にならない現状となっております。

2024年度の大会主管は、12月に全道フットサル選手権大会 U-12女子の部、3月に全道シニアフットサルオープン大会を予定しておりますので、多くのチームの参加をお待ちしております。

規模は小さな協会ではありますが、色々な工夫をし、皆がサッカーを楽しめる環境作りを引き続き進めてまいります。

【千歳地区】

地区の現状と今後の展望



千歳地区サッカー協会 理事長 北国 浩

当地区は、千歳市・恵庭市・北広島市の3市各サッカー協会で構成されております。令和5年5月から新型コロナウイルス感染症が感染法上、第5類に移行となったこともあり、各種別の事業も計画どおりに進めることが出来ました。2023年度のチーム数は45チーム、選手登録数は1371名、3種・4種チームはそれぞれ1チーム減、大学女子チームが1チーム増となりました。前年度と比較しますと、選手登録数は7名、チーム数は1チームの増加となっています。3種においては、合同チームでの登録が多く見受けられます。昨年8月に恵庭市で開催された全道中体連大会では、恵庭市が全5校合同チーム、千歳市では合同で1チームと単独校1チームが出場しました。中体連の合同チームの中には、選手人数が多いチームもあることから、地区カブスリーグでは、シーズン毎に組合せが変わることを避けるため、同じ組合せで運営をする工夫をしています。

また、4種においては、毎年、選手数、チーム数が減少傾向にありますが、キッズ年代が増加していることから、巡回指導やフットサルも含めたスクール開催の他にも、登録に向けた新たな取り組みが課題であります。2023年度は、全道中体連、全道高校女子選手権、道女子リーグを同地区で主管し、マッチコミッショナーやマッチウェルフェアオフィサーを地区内の役員で配置開催出来たことを踏まえ、2024年度は同地区内の全登録チームに1名のクラブウェルフェアオフィサーを配置出来るよう、ウェルフェアオフィサー委員会を設置、ウェルフェアオフィサージェネラルにより研修会を開催し、取得者の養成を行ってまいります。誰もがサッカーの楽しさに触れられる環境づくりの構築に向けて、各自治体や関係機関との連携による施設整備を進めるとともに、危機感を持って、地区協会と各種年代指導者の力を結集し、サッカーファミリー拡大を目指します。

【道北地区】

道北地区の現状と課題



道北地区サッカー協会 理事長 谷口 直寿

道北地区において、中心自治体としている名寄市、士別市の人口が様々な要因のなか、人口減少率がさらに拍車をかけている現状にあるいま、必然的にサッカーを取り巻く環境にも影響が出ている。各カテゴリーで、単独では維持できない状況となっており、自治体同士での合同チーム編成で何とかチーム維持しながら進めてはいるものの、将来的な解決策とはいえません。とりわけ子供たちの減少により、2種の高校部活存続問題や3及び4種のチーム数の減少など、厳しい状況に直面していることから対策が急務である。

今後も、将来に向けて底辺拡大のためキッズ年代の教室やフェスなど普及活動を促進し、遊びを通じてサッカーの楽しさを保護者も一緒に感じて貰えるよう、様々なアイデアを取り入れながら、継続的な活動につながるよう取り組んでいきます。

また、各地域の取り組みとして「サフォークランド士別サッカー大会」や「ミヤザキ杯」など、4種各カテゴリーにおいて地区の独自大会を行いながら子供たちのモチベーションを保てるように努め、子供たちが継続して続けられる環境を維持していきます。さらに、女子サッカーの普及活動に努め、サッカーファミリー拡大につなげていきます。

中学校や高校の部活動の地域移行に伴う課題もありますが、教育委員会や学校、各自治体など関係機関と協力しながら、サッカーを安心して継続できる環境の整備を図っていきたいと思います。

今後もサッカーの楽しさをあらゆる世代と共有すると共に、関わる皆さんが心身ともに充実していくことを目指し、課題解決に向けて進めていくためには、協会理事会や事務局、各委員会などの活性化や効率化など組織の見直しを図ることも取り組んで参りたいと思います。

【オホーツク地区】

オホーツク地区サッカー協会の現状と課題



オホーツク地区サッカー協会 理事長 中田 孝一

オホーツク地区では、2016年4月に、『16→25プラン』と次の10年に向かって進むために独自のプランを掲げました。「リーグ文化の醸成」、「女子選手数の倍増」、「施設の充実」、「みんなつながっている」を重点課題とし、役員一丸となって取り組んでおります。

重点課題の1つである女子選手数の倍増については、難しい状況ではありますが、ガールズサッカースクールを開催するなど、女子委員長や指導者スタッフの尽力により昨年度は選手数の減少が留められております。また、3種年代の女子選手が高校進学時に旭川や札幌圏などの強豪校へ進学し競技を継続されていることについて、オホーツク管内には2種的女子チームが無いことから、選手の皆さまには各所属チームでの活躍を期待しております。

園等への巡回指導やキッズ教室を開催しファミリー拡大などの目標達成に向け進めていきたいと考えております。

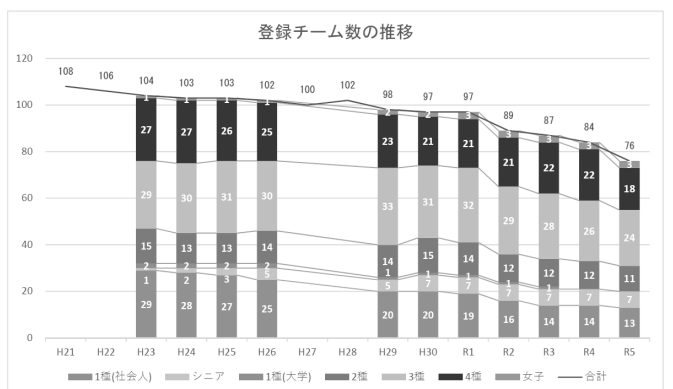
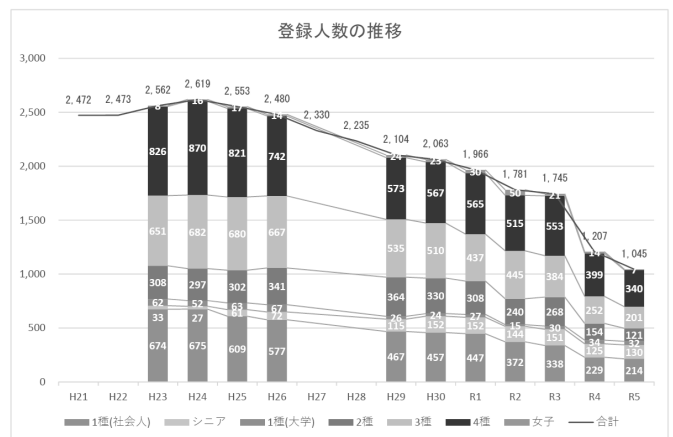
今年度は、8月に全道社会人サッカー選手権大会(1種)と9月に全道0-50サッカー大会(シニア)が本地区協会主催で開催いたします。

大会に参加される選手、役員の皆さまに対しまして、精一杯大会運営に尽力したいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



オホーツク女子選手

当地区の課題としましては、サッカーに限らずどの競技にも共通します少子化による競技人口の減少が深刻化しており、当協会のサッカー人口も減少しています。平成24年度のピーク時の登録人数の約4割となっております。今後も継続してキッズ年代にサッカーの楽しさを伝えたく幼稚



【根室地区】

根室地区協会の現状と今後の展望



根室地区サッカー協会 理事長 高橋 勇樹

根室地区サッカー協会の現状としては、チーム数及び選手数の減少が著しく、登録チーム数が年々減少傾向にあります。これは、どの競技に関しても言えることですが、そのような中でもファミリー拡大を図るべく、各種別で積極的な取り組みを進めています。まず、キッズの取り組みとして、積極的な巡回及び集合型のサッカー教室を開催し、4種年代へのつなぎとなること。4種は、試合数を確保し、いずれの 카테고리も多く試合に参加し、サッカーの楽しさを伝えること。女子に関しては、単に男子選手とともに試合を行うことにとどまらず、地区間で連携を取り、女子の試合を多くすることなど、コロナ禍以降、積極的に各種別関係者が工夫をし取り組みを継続しているところです。2024年度については、例年の取り組みから大きく変更することなく、キッズ年代への積極的なアプローチを継続していき、年に一度開催されるキッズ大会で燃え尽きてしまうことがないように、通年で取り組みができる環境を作り出すこと。4種年代は引き続き、サッカーの楽しさを全カテゴリーで感じていただくとともに、トレセン活動を活用したポジション別の強化を図り、楽しさに強さがプラスされるよう活動にアクセントをつけ深化推進する必要があります。また、3種年代は、部活

動の地域移行問題があり、部活動としてもチーム数が減少傾向にある中、地域移行により減少に拍車がかからぬよう各市町と協力し、積極的に地区サッカー協会として関わりを持つ必要があると感じています。そこからつながる2種年代も決してチーム数、登録選手数が多いわけではありませんで、各種別が積極的な取り組みを継続し、自身の市町や管内にとどまることができるよう、魅力ある活動を推進していくことを少しずつではありますが、進めていきたいと考えています。地域は広いものの人口は他の地区に比べ少ない地区ではありますが、各カテゴリーが目的意識を持ち、地区協会として連携を強化することにより、魅力のあるサッカー活動を推進していくことは可能であると思いますので、更なる深化推進に向け活動を進めていきます。終わりとなりますが、当地区は北海道の最東端にある地域であり、なかなか全道大会を開催するにも、来ていただくチームへの負担等を考えると積極的な手上げ等は難しいところですが、主要となる種別の全道大会を開催したいという現会長の思いもありますので、今後機会がありましたら、ぜひ根室地区で全道大会を開催していきたいところです。

【宗谷地区】

これからの宗谷地区



宗谷地区サッカー協会 理事長 本山 哲司

昨年5月より、日本のおっぺん宗谷地区でも本来のサッカー活動が再開されました。特に幼稚園巡回が宗谷管内の離島を含めた遠方でも開催することが出来、多くの幼児がサッカーに携わることとなり、大変よろしく思います。また、本年は高体連の全道大会も宗谷地区で開催され、多くの市民がサッカーを身近に感じられる機会を頂きました。しかし、当地区の人口減少は他地区よりも早く進み、選手の減少により単独チームを組めない状況が顕著に表れてき

ています。指導者や審判員不足だけでなく、協会役員の担い手不足も慢性化している状況です。発足以来掲げている「日本のおっぺんを熱くする」を合言葉に、サッカーファミリーを一人でも増やし、サッカー活動が出来ない環境を作らないことを掲げ、当地区のサッカー熱を全道・全国へ発信していく1年となるよう、一丸となり盛り上げていきたいと思っております。

各種連盟

北海道学生サッカー連盟 / 北海道自治体職員サッカー連盟
北海道自衛隊サッカー連盟 / 北海道専門学校サッカー連盟
北海道クラブユースサッカー連盟 / (一社)北海道フットサル連盟
北海道シニアサッカー連盟 / 北海道チャレンジドサッカー連盟
北海道ビーチサッカー連盟



【北海道学生サッカー連盟】

学生サッカーの取り組み



北海道学生サッカー連盟 理事長 濱谷 弘志

北海道学生サッカー連盟では、ここ数年続いた公式戦試合数の減少および、それに伴う競技レベルの低下を改善するため、リーグ戦運営方法の大きな変更を行いました。これまで行ってきた総当たり戦であるレギュラーリーグとその順位に基づいて再度リーグ編成を行い、全国大会出場校、各リーグの昇格、降格を決めるプレーオフを導入しました。具体的には、インカレ全国大会北海道代表を決定するため1部上位4校によるチャンピオンリーグ、次年度の昇格、降格を決めるため、これまでの一発勝負を止め、各チームの順位による1部と2部、2部と3部チームでのチャレンジリーグを創設し、最終的に入れ替えを行うこととしました。その結果、3部から2部へ2校が昇格し2部から3部へ5校が降格するという、これまでに無いリーグ再編が現実となりました。昨年度までは、リーグ終盤に

なると、入替戦に関係ないチームが緊張感を無くす傾向がありました。どのチームも昇格、降格の可能性がうまれたことにより、秋季に緊張感のある勝敗にこだわる試合が繰り広げられ、学生リーグの競技力向上に繋がることが期待されます。今年もシーズン最後まで目の離せない試合が繰り広げられ、どのチームが上位リーグに上がってくるか楽しみにしております。

大学サッカーでは、インカレ、総理大臣杯、インディペンデンスリーグ、新人大会の4つの全国大会が行われています。しかしながらここ数年、北海道代表チームは初戦や予選リーグを突破することができず、苦戦が続いています。今年代表チームにはなんとか全国大会本戦で1勝でも多く勝ち、北海道の大学サッカーのレベルを全国の場で証明してほしいと思います。

【北海道自治体職員サッカー連盟】

現状と今後について



北海道自治体職員サッカー連盟 理事長 八木 康年

2020年度から2023年度までの3年間はコロナ禍により、自治体連盟主催の全ての事業を中止とする対応をとってまいりました。その影響もあり、加盟登録チーム数はコロナ禍前の2019年度の47チームから、2023年度は34チーム、今年度は現時点において24チームとコロナ禍前の約半分まで減少し、連盟の活動に大きく影響が出てしまっているのが現状となっております。

それでも昨年度は4年振りに道内での全ての事業を開催し、全国大会は茨城県ひたちなか市において行われ、道内からは函館市役所と札幌市役所の2チームが出場しております。

今年度につきましては、全道自治体職員サッカー選手権大会は6月15日から3日間旭川市で開催し、全国大会は

7月27日から6日間静岡県藤枝市において50回目の記念大会として、全国から48チームが集まり盛大に開催される予定となっております。また全道自治体職員フットサル大会につきましては、北ブロックが11月3日から2日間名寄市において、南ブロックは2025年3月22日から2日間岩見沢市において開催される予定となっております。

当連盟としては、これからも道内における一種選手の活躍の場の一つとして事業を継続して行くと共に、自治体職員としてそれぞれの地域で健康的に働き続けるため、率先してサッカーやフットサルを通じて心と体を鍛える活動を行って参りたいと考えております。

今後も当連盟の活動に、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

【北海道自衛隊サッカー連盟】

昨年を振り返って



北海道自衛隊サッカー連盟 理事長 小澤 義則

2023年全道自衛隊サッカー大会兼第57回全国自衛隊サッカー大会北海道予選が10月21日(土)～22日(日)の両日、千歳市の臨空公園サッカー場で開催されました。日程上この時期は天候が心配でしたが天候にも恵まれ秋晴の空のもとで全道各地から4チームがトーナメント戦を繰り広げ、札幌駐屯地サッカー部が優勝しました。この大会は全国大会の予選も兼ねて行う大会ですが優勝の札幌駐屯地サッカー部が全国自衛隊サッカー連盟への登録を遅延してしまい規定上、参加できなくなり準優勝の滝川駐屯地サッカー部が全国大会に参加しました。教訓としては登録段階で出場チームへの確認が遅かったことと全国の登録をチーム任せにしていたことが挙げられます。また、全国自衛隊サッカー連盟としては北海道自衛隊サッカー連盟の存在を認めていないらしく、北海道の自衛隊での有志組織であり、全国自衛隊サッカー連盟とは独立した組織

であって関係性はないと考えているみたいです(北海道予選の手助けをしている組織と理解)こう言ったことで道連盟から追加登録を要請してもダメだということがわかりました。何十年もやってきて、道連盟の存在が認められていないのは非常に残念なことです、全国自衛隊サッカー連盟の組織も防大サッカー部OBで毎年、役員構成も交代で実施しているらしく実務担当者により考え方が違って今まで何回か調整してきましたが担当者が変わるたびに全国枠が変わっていました。今回も4チーム登録と2チーム登録では枠数が変わっていました。2024年度も大会を実施しますが全道自衛隊サッカー大会として実施します。全国に係るところは各チームが責任をもってやっていただき今後は連盟としての役割を考えながら見直して行きたいと思っています。

【北海道専門学校サッカー連盟】

連盟の現状と今後に向けて



北海道専門学校サッカー連盟 理事長 三谷 直人

北海道専門学校サッカー連盟は、1991年4月24日に誕生しました。本連盟は、「サッカーを通じ、学生の心身の健全な発達、体力の向上及びスポーツ精神の高揚を図り、併せて専門学校教育の充実、親睦に寄与する」という目的でスタートしました。現在では各種大会運営に関わり、他の種別とも様々な面で協力しながら北海道のサッカー活動の発展に貢献できるよう取り組んでおります。しかし近年では少子化等の影響により専門学校への進学率も低下しており、選手・チーム数の減少が著しく見える形となってきているのが現状です。

新年度における連盟の活動は、4月の理事総会から始まり、春季の「第29回北海道専門学校サッカーリーグ」、

夏季には「第34回北海道専門学校サッカー選手権大会」2つの事業を中心に運営することとなります。

更に今年度、メインの大会となる「第34回全国専門学校サッカー選手権大会」(文部科学大臣杯 全国専門学校総合体育大会 10/7～10)が、サッカー王国静岡県御殿場市の「時之栖スポーツセンター」で初めて開催されることとなっております。2023年度は1回戦敗退と悔しい思いをした北海道代表チームがファイナル進出を狙えるよう、春のリーグ戦から学生たちが切磋琢磨できる環境を連盟として準備していきたいと考えております。

今後も学生たちの笑顔を多くの方々と共有していける連盟としてチャレンジしてまいりたいと思います。

【北海道クラブユースサッカー連盟】

クラブの役割



北海道クラブユースサッカー連盟 理事長 大年 貴之

北海道クラブユースサッカー連盟は、日本サッカー協会、日本クラブユース連盟に帰属するU-18・U-15カテゴリーのクラブを取りまとめている連盟です。

クラブユース連盟が発足し、約30年が経ちました。クラブ文化が無かった時代と比べるとサッカー界においてクラブの定着化が見受けられます。その一方で北海道は人口減少や少子高齢化が進んでおり、これによりサッカーを含むスポーツの参加者や人材の確保が課題となっており、クラブチームや学校のサッカー部の運営が困難になっている地域も出てきています。このような現状から部活動の地域移行やクラブの中体連への移行も見られるようになってきました。

また働き方改革により、これまでの日本のスポーツや部活動を支えてきた学校・教員の部活動への関与も変化しており、部活動自体の活動も制限が出てきています。このような環境の変化の中で、今後クラブの役割が重要な時代になってくると感じております。

クラブは、部活動の地域移行においてスポーツ(サッカー)

指導を提供する役割を担い、ライセンス保有の指導者やコーチが部活動の指導に参加し、適切なトレーニングプログラムや技術指導を行い、生徒たちのスポーツ技術や知識の向上を支援することで北海道全体のサッカーレベルを引き上げていけるのではないかと思います。その為には、地域クラブ、学校、関係者間の協力と連携が必要になり、地域サッカー協会、自治体、教育機関との連携や支援が重要と感じております。また、持続可能な運営や資金確保のための努力も求められ、以上の課題への取り組みによって、部活動の地域移行とクラブの発展が両立されていくのではないかと思います。

北海道クラブユースサッカー連盟では、競技力に特化するのではなく、地域との連携と交流を推進し、サッカーコミュニティとの協力や協力関係の構築を促進することによって、育成年代の(ユースサッカー)発展と成長を支える組織であるようにしたいと考えております。

また、北海道のサッカー文化へ全面的に関与し北海道サッカー協会の一翼を担って行きたいと考えております。

【北海道フットサル連盟】

バモ！フットサル！



一般社団法人北海道フットサル連盟 専務理事 荒川 浩幸

2023年8月27日、北海道のトップチームであるエスポラーダ北海道は、チーム設立15周年を迎え札幌市北海きたえーるで記念マッチを開催しました。シーズンが終了し成績は最下位となりディビジョン2優勝のヴォスクオーレ仙台との入替戦にまわることになりました。残念ながら2024-2025シーズンはディビジョン2で戦うことになったわけですが正直、トップチームの成績は競技全体の盛り上がり方に少なからず影響があります。

チームは、1シーズンでのディビジョン1復帰を目指し新体制で臨みます。そのタイミングで何と、2023年度北海道地域リーグ優勝のSorpresa十勝がプレシーズンマッチとしてエスポラーダ北海道を迎えることがリリースされたのです。5月6日(祝月)新得町総合体育館(サホロアリーナ)に500

名の観客を集めkickoff、接戦の試合内容を制したのはエスポラーダ北海道でした。

事前の準備からホストチームのSorpresa十勝のスタッフ、選手が協会、連盟の協力を得ながら進め、このイベントは、大成功に終わったと感じています。昨シーズンから地域リーグでも地元での開催時にもっと試合を盛り上げるため色々な企画を自チームで考案し実施しています。おらがチームを応援する子供たちやチーム関係者が一体となった会場は、Fリーグ開催時に近い雰囲気です。

我々連盟も自主的な試合演出を支援し、選手のモチベーションを高め、試合を観てくれる方々に魅力あるフットサルを感じてもらえるよう運営に当たっていきたく思います。

バモ！フットサル！



2023年度HFF表彰式

【北海道シニアサッカー連盟】

北海道シニアサッカー連盟の現状と今後



北海道シニアサッカー連盟 理事長 佐藤 英隆

2020年4月に北海道シニアサッカー連盟理事長に就任し、今期で3期目(5年目)を迎えました。理事長就任当初はコロナに翻弄された時期もありましたが、2023年度は全事業を予定通り実施することができました。特筆事項として、2023年9～10月に開催されたJFA第11回全日本O-40サッカー大会で北海道オッサンドーレ札幌40が準優勝という輝かしい成績を収めました。今年度に入っても、6月に開催されたJFA第18回全日本O-70サッカー大会において、FC70室蘭が3位入賞と活躍してくれましたので、他カテゴリーもこれに続いて行ければと思います。

さて、北海道シニアサッカー連盟は2000年に発足し、2024年度で25年目を迎えますが、まだまだ歴史の浅い組織です。連盟は、会長1名・副会長3名・理事長1名・副理事長5名のほか、14名の常任理事、14名の理事、会計監事2名、2022年から新設したEA(Executive Adviser:連盟運営や普及等に関するアドバイザー)2名の総勢42名で理事会を構成し、全国大会につながる真剣勝負の全道シニアO-40/O-50/O-60/O-70サッカー大会、サッカーを楽しむ親睦を深めることが目的の全道シニア8人制オー

ブン大会、北海道シニア8ツアーオープン大会、北海道シニアオープン大会、全道シニアフットサルオープン大会の企画・運営など、競技志向ごとのプレー環境を創出しています。このほか、札幌・道央地区、道南地区、十勝地区、オホーツク地区、釧路地区、根室地区、道北地区で40・50部門のサッカー及びフットサルのリーグを開催しており、60/70以上の部門については、主に道央地区で女子とも連携し夏と冬のリーグ戦を開催しています。

シニア種の登録状況は、2000年のシニア連盟発足時に11チーム・340名でスタートしたのち、年々増加の一途をたどり、2024年6月17日時点で132チーム・2800名程度となっています。

サッカーが生涯スポーツと言われて久しく、シニア種の活動領域がより一層広がることが予想されるため、シニア部門のサッカー環境を充実させ持続可能な組織とする必要があると考えています。そのためには、以下の項目を当面の課題と考え、2021年から開催している勉強会において、今後の方向性を模索しているところです。

- ① 10年後のシニア種のあり方
- ② シニアカテゴリーの普及(ミドル年代からの継続者のスムーズな移行、競技を一時中断した再開者や初心者が入りやすい環境及びニーズにあったサッカーをできる環境の創出)
- ③ 女子部門との連携
- ④ 審判スキルの向上及び資格保持者の増強
- ⑤ 道外地域との交流

【北海道チャレンジドサッカー連盟】

今年度のチャレンジドサッカー



北海道チャレンジドサッカー連盟 会長 佐橋 正智

「熱蹴(あつげり)」。今年度本連盟で掲げたスローガンです。「ゴールを決めるぞ」「パスをするぞ」「ピンチを防ぐぞ」等々、一つ一つのプレーに熱い思いを込めていくことを意識し設定しました。年齢や技術の差、障がいの重軽に関係なく、サッカー好きな全員がサッカーに熱中して楽しめることを、何よりも大切にしたいと思います。

<課題>

昨年度から続いて、競技人口減少が大きな課題となります。コロナ禍の一時的な活動中断により、地域・学校・職場等でサッカーから離れた人たちが、現在に至るまで回復していない状況です。いくつもあるスポーツ・余暇活動の中で、もう一度サッカーに興味を持ち、サッカーに取り組める環境を作ることが連盟の大きな役割です。特に小中学生対象のジュニアチームの減少が大きく、潜在するサッカー好きの子どもたちを受け入れるチーム作りが必要と考えています。

<今年度の活動>

本連盟では、11人制・8人制・フットサル大会を大きな柱として、高等支援学校の大会やチームに所属していない小中学生を交えてのジュニア交流会等を設定しています。また、指導者講習会も開催し、指導者の広がりや質の向上を

図り、新チーム起ち上げにもつなげることを期待しています。同時に、旭川地区でサッカー・フットサル大会、未経験者も対象にしたフットサル教室を開催するなど、活動地域の広がりも目指しています。

昨年度から、肢体不自由など複数の障がい種チームが集まり、インクルーシブフットボールフェスタを開催し、今年度も11月に予定しています。昨年度はウォーキングサッカーや電動車いすサッカーなど、各地で実践されているそれぞれの実態に合わせたサッカーを間近に見ることができ、今年度も更に充実した取組となるよう準備中です。

<更に課題>

昨年度、12月にUAEで開催された「UAE交流プログラム」に参加した日本知的障がい者サッカー女子日本代表チームに、本道から特別支援学校2年生の生徒が選出され活躍してきました。大変喜ばしく名誉なことですが、経費の支援において自己負担の重さが課題となりました。道内チームを全国大会に派遣する際も同様の課題があります。

これらの課題に取り組みながら、今年度も育成と拡大を目指していきます。

【北海道ビーチサッカー連盟】

ビーチサッカーピッチを SSAP に!!



北海道ビーチサッカー連盟 理事長 溝口 昇

昨年、要覧に北海道ビーチサッカー連盟が目指すビジョン「未来のアイランド Beach Sports?!」を掲げました。このビジョンを進めるため、継続的な情報収集・調査(国の環境施策(海の森ブルーカーボン)やスポーツ施設整備施策、石狩市が管理している「あそびーち石狩」の将来像等)・研究及び情報共有や効果的なプロモーション活動を行っています。また、Beach アイランド構想を作成し、関係機関へ働きかけていきます。しかし、このビジョンの実現には長期(10年前後)に渡るものと考えており、諦めず一步一步進めてまいります。

一方、北海道ビーチサッカーの現実の事柄に目を向けなくてはなりません。それは、ビーチサッカーの知名度は低く、ビーチサッカーをする環境、練習場や試合場所が少なく、遠方にあることです。北海道のビーチサッカーは、2006年厚真町浜厚真海岸で初めて公式競技として始まりました。2018年までは、道内各地の多くのチームから参加がありました。しかし、2019年以降これまで3チーム前後の参加に留まっています。この要因は、ビーチサッカーを日頃から取り組める環境がないことです。使える海浜地は、比較的チームが集まりやすいあそびーち石狩がありますが、海開き期間中は、海水浴客に迷惑をかけるということで、使用制限されています。また、海開き期間外は、海浜地占有使用料を払わないと使用することができません。その他の海浜地(イタンキ浜(室蘭市)、夕陽ヶ丘ホワイトビーチ(苫前町)、浜厚真海岸(厚真町)は未整備で使用不可)は、片道

3時間を超えるところもあり、日頃から使用できる状況ではありません。このため、年々参加チームが集まらなくなってきており、ビーチサッカーを普及・発展させるまでには至っていません。

日常のビーチサッカー環境「だれもがビーチサッカーの楽しさに触れることができること。身近に心からビーチサッカーを楽しめる場があること。いつまでも、年齢や学年の垣根を越えてビーチサッカーを続けることができる場があること等ビーチサッカーピッチを整備することが急務となっています。

そこで、SSAP 屋内競技場に隣接しているアップ場の半分を、常設のビーチサッカーピッチを整備することについて、HKFA と協働で検討することを提案いたします。このピッチができることにより、北海道ビーチサッカー発信基地として、飛躍的に普及することでしょう。加えて、砂場のフィジカルトレーニングが可能となり、サッカー競技者の足腰が鍛えられる等プラスに作用することになるでしょう。

サッカーファミリーの一員として、ビーチサッカーを普及・発展させるため、活動している当連盟「たつての要望」であります。

最後に、HKFA 関係役員皆様のご理解とご支援を賜りますよう、何卒よろしくごお願い申し上げます。

データベース

2023年度



2023年度各事業大会結果報告

国体

特別国民体育大会サッカー競技

年	回	開催地	北海道代表	最終結果	スコア	優勝チーム
2023		鹿児島	少年男子:ベスト8 少年女子:1回戦敗退 成年男子:4位		少年男子:2回戦vs島根2-0、準々決勝vs東京1-4 少年女子:1回戦vs東京0-5 成年男子:1回戦vs岐阜4-1、準々決勝vs新潟0-0(pk3-0)、準決勝vs鹿児島1-3、3位決vs宮崎1-3	少年男子:茨城 少年女子:大阪 成年男子:高知

第1種

全道高等専門学校(U-19)サッカー新人大会

年	回	開催地	チーム数	優勝	準優勝	第3位
2023	14	苫小牧	4	苫小牧工業高等専門学校	旭川工業高等専門学校	函館工業高等専門学校

全国高等専門学校サッカー選手権大会

北海道予選				全国大会			
年	回	開催地	結果	回/日程/会場	優勝チーム	北海道代表チーム	最終結果
2023	56	釧路	1位 苫小牧工業高等専門学校 2位 旭川工業高等専門学校 3位 釧路工業高等専門学校	56 2023年12月 栃木	苫小牧工業高等専門学校	苫小牧工業高等専門学校	1回戦敗退

北海道専門学校サッカー選手権大会

北海道予選				全国専門学校サッカー選手権大会			
北海道予選				全国大会			
年	回	開催地	結果	回/日程/会場	優勝チーム	北海道代表チーム	最終結果
2023	33	札幌	優勝 北海道スポーツ専門学校	33 2023年10月 大阪	ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校	北海道スポーツ専門学校	1回戦敗退

北海道専門学校サッカーリーグ

年	開催地
2023	開催なし

北海道学生サッカーリーグ

北海道予選				全日本大学サッカー選手権大会					
北海道予選				全国大会					
年	回	チーム数	第1位	第2位	第3位	回/日程/会場	優勝チーム	北海道代表チーム	最終結果
2023	42	10	(1部)教育大学岩見沢校 (2部)札幌国際大学 (3部)室蘭工業大学	札幌大学 教育大学旭川校 教育大学釧路校	北翔大学 札幌医科大学 釧路公立大学	72 2023年12月 関東圏 明治大学	教育大学岩見沢校	札幌大学 札幌医科大学 1回戦敗退	

インディペンデンスリーグ北海道大会

年	回	チーム数	優勝	準優勝	3位
2023	15	6	札幌大学	東海大学	北海道大学、教育大学岩見沢校

総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント

北海道予選				全国大会					
北海道予選				全国大会					
年	回	開催地	チーム数	優勝	準優勝	回/日程/会場	優勝チーム	北海道代表チーム	最終結果
2023	45	札幌	22	教育大学岩見沢校	札幌大学	47 2023年9月 宮城 富士大学	教育大学岩見沢校	教育大学岩見沢校	1回戦敗退

デンソーカップチャレンジサッカー

全国大会							
年	回	会場	北海道代表チーム	最終結果	優勝チーム		
2024	38	福島県	北海道選抜	プレーオフ敗退	関東選抜B		

知事杯全道サッカー選手権大会

北海道予選		
年	回	開催地
2023		中止

HKFA北海道サッカー選手権大会

北海道代表決定戦				天皇杯全日本サッカー選手権大会			
北海道代表決定戦				全国大会			
年	回	開催地	チーム数	結果	回/優勝チーム	北海道代表チーム	最終結果
2023	5	札幌	4	優勝 BTOP北海道 準優勝 北海道十勝スカイアース 3位 教育大学岩見沢校 札幌大学	103回 川崎フロンターレ	BTOP北海道	2回戦敗退

全国社会人サッカー選手権大会

北海道予選				全国大会				
北海道予選				全国大会				
年	回	開催地	結果	回/日程/開催地	優勝チーム	北海道代表チーム	最終結果	
2023	59	旭川	Aブロック 北海道十勝スカイアース 優勝	Bブロック 優勝	BTOP北海道	59 2023年10月 佐賀 FC刈谷	北海道十勝スカイアース	2回戦敗退

全国クラブチームサッカー選手権大会

北海道予選				全国大会				
北海道予選				全国大会				
年	回	開催地	結果	回/日程/開催地	優勝チーム	北海道代表チーム	最終結果	
2023	30	苫小牧	Aブロック 北海道FORTUNA FC 優勝	Bブロック 優勝	VAIN FC 伊達	30 2023年9月北海道 E-WING出雲	北海道FORTUNA FC、VAIN FC 伊達、蹴鞠会	1回戦敗退

全道自治体職員サッカー選手権大会						
北海道予選				全国大会		
年	回	開催地	優勝	準優勝	回/日程/開催地	北海道代表チーム
2023	53	苫小牧	函館市役所	札幌市役所	49 2023年8月 茨城 藤枝市役所	函館市役所 2回戦敗退

北海道サッカーリーグ						
年	回	チーム数	優勝	準優勝	3位	
2023	46	8	BTOP北海道	北海道十勝スカイアース	ノルブリッツ北海道	

北海道サッカーリーグブロックリーグ決勝大会						
年	回	開催地	チーム数	優勝	準優勝	3位
2023	21	空知	4	ASC北海道	Canale小樽	新得フットボールクラブ

北海道サッカーリーグ ブロックリーグ						
年	ブロック	チーム数	優勝	準優勝	3位	
2023	札幌	6	アンフィニVANKEI.FC	札幌ヒヤシンスFC	札幌北大クラブ	
	道央・道北	4	Canale小樽	VERDELAZZO旭川	CLUBE TREVO	
	道南	6	ASC北海道	VAIN FC 伊達	日本製鉄室蘭サッカー部	
	道東	6	新得フットボールクラブ	FC網走	クラブス	

全道ミドル(30over)サッカー選手権大会						
年	回	開催地	カテゴリーB			
2023	15	千歳	1位	札幌Shoebill FC	2位	アンフィニヒヤシンスミドル

全国地域サッカーチャンピオンズリーグ						
全国大会						
年	回	会場	北海道代表チーム	最終結果	予選リーグ結果	優勝チーム
2023	47	栃木県グリーンスタジアム	BTOP北海道	予選R敗退	グループC3位(1勝2敗)	栃木シティFC

全道自衛隊サッカー大会						
北海道予選				全国自衛隊サッカー大会		
年	回	開催地	チーム数	結果	回/日程/開催地	北海道代表チーム
2023	57	千歳	4	優勝 札幌駐屯地サッカー部 準優勝 滝川駐屯地サッカー部 3位 千歳基地サッカー部	57 2024年4月東京	滝川駐屯地サッカー部 予選リーグ敗退

第2種 (U-18)

全国高校サッカー選手権大会						
北海道予選				全国大会		
年	回	開催地	チーム数	結果	日程/会場 優勝チーム	北海道代表チーム 最終結果
2023	102	札幌	27	優勝 北海道高等学校 準優勝 旭川実業高等学校 3位 札幌大谷高等学校 札幌創成高等学校	23年12月-24年1月 駒沢陸上競技場他 青森山田	北海道高等学校 2回戦敗退

全国高等学校総合体育大会サッカー競技						
北海道予選				全国大会		
年	回	開催地	チーム数	結果	日程/開催地 優勝チーム	北海道代表チーム 最終結果
2023	76	札幌	25	優勝 旭川実業高等学校 準優勝 札幌創成高等学校 3位 札幌第一高等学校	2023年7-8月 北海道 明秀日立	旭川実業高等学校 3回戦敗退 札幌創成高等学校 2回戦敗退 札幌第一高等学校 2回戦敗退

日本クラブユースサッカー選手権(U-18)大会							
全国大会							
年	回	開催日程	開催地	北海道代表チーム	最終結果	予選リーグ結果	優勝チーム
2023	47	7月	味の素他	北海道コンサドーレ札幌U-18	ラウンド16敗退	グループG2位(2勝1敗0分)	カンパ大阪ユース

高田宮杯JFA U-18サッカーリーグ プレミアリーグ参入戦						
全国大会						
年	開催地	結果			結果	
2023	広島広域公園他	北海道高校	Cブロック1回戦敗退		北海道コンサドーレU-18	Aブロック1回戦敗退

高田宮杯JFA U-18サッカーリーグ プリンスリーグ北海道						
年	開催地	チーム数	優勝	準優勝	3位	
2023	札幌・旭川他	8	北海道高校	北海道コンサドーレU-18	札幌大谷高等学校	

高田宮杯JFA U-18サッカーリーグ 北海道ブロックリーグ						
年	ブロック	チーム数	優勝	準優勝	3位	
2023	札幌	8	[1部]札幌第一(top)	札幌大谷(2nd)	札幌光星(top)	
		8	[2部]東海大札幌(top)	札幌第一(2nd)	北星学園大附属(top)	
		16	[3部A]札幌大谷(3rd)	札幌龍谷学園	北海(4th)	
		27	[3部B]札幌大谷(4th)	札幌第一(3rd)	東海大札幌(2nd)	
	道央	8	[4部A]北星学園大付属(2nd)	東海大札幌(4th)	札幌光星(3rd)	
		14	[4部B]道科学大高(2nd)	東海大札幌(3rd)	とわの森三愛(4th)	
		8	[4部C]札幌光星(4th)	札幌白石	札幌静修	
		8	[1部]北照	文教大	恵庭南	
	道南	8	[2部]北照(2nd)	滝川	文教大(2nd)	
		8	[1部]大谷室蘭(2nd)	駒大苫小牧(2nd)	函館大谷	
		15	[2部西]市立函館	伊達開来	函館大谷(2nd)	
	道東	8	[2部東]大谷室蘭(3rd)	北海道栄	苫小牧東	
8		[1部]帯広大谷	帯広緑陽	網走南ヶ丘		
8		[2部]帯広大谷(2nd)	帯広北(3rd)	帯広緑陽(2nd)		
道北	8	[1部]旭川実業(3rd)	旭川志峯	旭川北		
	8	[2部]旭川永嶺	旭川東	旭川商業		
	9	[3部]旭川実業(4th)	旭川西	旭川東(2nd)		

高田宮杯JFAU-18サッカープリンスリーグ北海道 プレーオフ						
年	開催地	チーム数	優勝	準優勝	第3位	
2023	札幌・苫小牧	12	北照	旭川実業(2nd)	札幌第一	

高田宮杯全日本U-15サッカー選手権大会

全国大会					
年	開催日程 開催地	北海道代表チーム	最終結果	優勝チーム	
2023	12/16-12/27 J-GREEN 堺他	北海道コンサドーレ札幌U-15 アンフィニMAKIFC	1回戦敗退 1回戦敗退	鹿島アントラーズジュニアユース	

北海道中学校体育大会北海道中学校サッカー大会

北海道予選				全国中学校体育大会全国中学校サッカー大会 全国大会		
年	回	開催地	チーム数	結果	回/日程/会場	参加チーム/最終結果予選リーグ等結果
2023	62	恵庭市	18	優勝 札幌大谷中学校 準優勝 稚内市立稚内南中学校	54 2023年8月 Pikaraスタジアム他	札幌大谷中学校 準々決勝敗退

日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会

全国大会							
年	回	開催日程	開催地	北海道代表チーム	最終結果	予選リーグ結果	優勝チーム
2023	38	8/15-8/24	帯広の森他	北海道コンサドーレ札幌U-15 SSSジュニアユース	予選敗退 予選敗退	グループD4位(1勝2敗) グループE3位(2分1敗)	FC多摩

北海道カプスリーグU-15

年	回	開催地	チーム数	優勝	準優勝	3位
2023	17	札幌・函館他	10	[1部] 北海道コンサドーレ札幌U-15 [2部] アプリール札幌U-15	アンフィニMAKIFC DOHTO Jrユース	札幌大谷中学校 プログレッシブ勝FC U-15

高田宮杯JFAU-15サッカーリーグブロックカプスリーグ

年	ブロック	チーム数	優勝	準優勝	3位
2023	札幌	9 1部	アンフィニMAKIFC(2nd)	SSSジュニアユース(2nd)	札幌ジュニアFC(2nd)
		9 2部A	石狩フットボールクラブ	フォーザSC	ベアフット北海道U-15
		9 2部B	元町中学校	SSSサクセス(2nd)	クラブフィールズU-15(2nd)
	道央	7 1部	Regaris小樽	泊SC	DOHTOセカンド
		7 2部	滝川ジュニア	FC Owls	FC Vortexセカンド
	道南	8	アレアレア	フロンティアトルナーレ	北湘南
道東	8	NFCレグルスU-15	帯北FC U-15	FC 網走 U-15	
道北	8	EINS FSV	コンサドーレ旭川U15(2nd)	緑が丘中学校	

北海道カプスリーグU-13

年	回	開催地	チーム数	優勝	準優勝	3位
2023	15	札幌・函館他	10	札幌ジュニアFC	北海道コンサドーレ札幌U-15	SSSジュニアユース
		札幌・室蘭他	2部	DOHTO Jrユース	クラブフィールズU-15	FC DENOVA札幌
		札幌・旭川他	3部	BIANCO NERO 旭川	プレイフル函館ジュニアユース	HKD FOOTBALL CLUB U-15

北海道ブロックカプスリーグU-13

年	回	ブロック	チーム数	優勝	準優勝	3位
2023	7	道南	8	アレアレア	フロンティアトルナーレ	AVENDA FC
	11	道東	8	NFCレグルスU-15	FC網走U-15	帯北FC U-15

全日本少年サッカー大会

北海道予選				全国大会		
年	回	開催地	チーム数	結果	日程/会場 優勝チーム	北海道代表チーム 最終結果/予選リーグ結果
2023	47	小樽市	16	優勝 札幌ジュニアFC 準優勝 北海道コンサドーレ札幌U-12 3位 SSS札幌サッカースクール FC DENOVA 札幌	2023年12月 鹿児島ふれあい他 ソレツコ熊本	札幌ジュニアFC 1次ラウンド敗退 1次グループF3位(1勝2敗)

全日本少年サッカー大会ブロック予選

年	ブロック	チーム数	優勝	準優勝	3位	3位
2023	札幌	16	A 札幌ジュニアFC B SSS札幌サッカースクール C FC DENOVA 札幌 D 北海道コンサドーレ札幌U-12	HKD FOOTBALL CLUB U-12 SSS札幌サッカースクール LIV FOOTBALL CLUB U-12 rugart	石狩フットボールクラブU-12レッド LIV FOOTBALL CLUB U-12 2nd FC Kitago アズベルデ 札幌藻南FC	FC DENOVA 札幌2005 スボルディングFC 西野第二サッカー少年団 ベアフット北海道U-12
		8	A パーモス恵庭FC U-12 B DOHTO Jr U-12A	滝川明苑JFC くりやまFC	EZZORE K N-JSC滝川	岩見沢ジュニア1985 ウエスト F マリノ小樽FC
		9	A AVENDA FC U12 B 函館サッカースクール C NFC FORCE	北海道コンサドーレ室蘭U-12 室蘭八丁フットボールクラブ YELL FOOTBALL CLUB	苫小牧ELSORE-FC U-12 ASC北海道U-12 サンスポーツクラブ	別海サッカー少年団A FC中標津A FC中標津A
		12	A 北海道コンサドーレ釧路U-12 B 幕別礼内 BLUE C SC釧路U-12	開西つづじが丘JrFC 札幌WEED 網走市サッカー少年団	北見西サッカー少年団 FCペーネU-12 プログレッシブ勝FC U-12	美幌UFOサッカー少年団 別海サッカー少年団A FC中標津A
	12	A コンサドーレ東川U-12 B VITA FC U-12 C B.N.F.C	名寄ビヤリサッカー少年団 東川サッカー少年団 RIVALE旭川FC	旭川忠和サッカー少年団 FC ASTRO サフォーランド士別SC Jr	旭川Grin.Bear.Boys FC 利尻サッカー少年団 RIVALE旭川FC	

フジバングループPresentsロババンCUP全道(U-12)サッカー少年団大会

年	回	開催地	チーム数	優勝	準優勝	第3位	第3位
2023	55	札幌市	32	SSS札幌サッカースクール	FC DENOVA 札幌	AVENDA FC U12	北海道コンサドーレ室蘭U-12

トラック協会杯全道少年団(U-11)サッカー大会

年	回	開催地	チーム数	優勝	準優勝	第3位	第3位
2023	35	札幌市	24	FC Kitago PIVO アズベルデ	苫小牧ELSORE-FC U-12 A	岩見沢日の出サッカー少年団	DOHTO Jr U-12A

全道少年(U-12)8人制サッカー大会

北海道予選				JA全農杯テレビンピック小学生8人制サッカー大会 全国大会		
年	回	開催地	チーム数	結果	日程/会場 優勝チーム	北海道代表チーム 最終結果/予選リーグ結果
2023	20	苫小牧市	16	優勝 FC DENOVA 札幌 準優勝 AVENDA FC U12 3位 DOHTO Jr U-12 Fibra Football Club U-12	2023/5/1 日産スタジアム他 レジスタFC	FC DENOVA 札幌 1次グループ敗退 1次R Dグループ4位(1勝2分)

岩内町長杯全道少年U-10サッカー南北海道大会						
年	回	開催地	チーム数	優勝	準優勝	第3位
2023	20	岩内町	24	KE・クラブフィールズU-12	北海道コンサドーレ札幌U-12	HKD FOOTBALL CLUB U-12

全道少年U-10サッカー北北海道大会						
年	回	開催地	チーム数	優勝	準優勝	第3位
2023	20	帯広市	24	北海道コンサドーレ東川U-12	根室北斗FC	FC中標津A

JFA U-12ガールズゲーム北海道 熊谷・高瀬杯サッカー大会						
年	回	開催地	チーム数	優勝	準優勝	第3位
2023	11	栗山町	17	旭川女子トレセンU-12	苫小牧北光U-12	空知FCガールズ

道新旗 北海道女子サッカーリーグ						
北海道予選				皇后杯 JFA全日本女子サッカー選手権大会		
年	回	開催地	チーム数	結果	日程/会場	北海道代表チーム
2023	18	札幌	6	優勝 札幌大学女子サッカー部ヴィスタ 準優勝 北海道リラ・コンサドーレ 3位 北海道文教大学附属高等学校女子サッカー一部	45 2023年11月 全国各地 INAC神戸レオネッサ	ノルディア北海道 2回戦敗退

北海道女子サッカーリーグ参入決定戦・入替戦						
年	回	開催地	参入戦	第1位	入替戦	勝利チーム
2023		札幌		北照高等学校		北照高等学校

全道O-30女子サッカー大会				JFA全日本O-30女子サッカー大会		
北海道予選				全国大会		
年	回	開催地	チーム数	結果	回/日程/会場	北海道代表チーム
2023	35	札幌	3	優勝 室蘭アイスパース 準優勝 DIVERTI	35 2024年3月 福島 シュビーニ大阪	室蘭アイスパース 3位トーナメント第3位

全日本大学女子サッカー選手権大会						
全国大会						
年	回	開催日程	会場	北海道代表チーム	最終結果	優勝チーム
2023	32	2023年12月	東京	札幌大学女子サッカー部ヴィスタ	1回戦敗退	山梨学院大学

北海道高等学校女子サッカー選手権大会				全日本高等学校女子サッカー選手権大会		
北海道予選				全国大会		
年	回	開催地	チーム数	結果	回/日程/会場	北海道代表チーム
2023	32	恵庭	11	優勝 北海道文教大学附属高等学校 準優勝 旭川実業高等学校 3位 北海道大谷室蘭高等学校 北照高等学校	32 2024年1月 兵庫 藤枝順心高等学校	北海道文教大学附属高等学校 1回戦敗退 旭川実業高等学校 1回戦敗退

北海道高等学校総合体育大会女子サッカー競技				全国高等学校総合体育大会サッカー競技大会女子		
北海道予選				全国大会		
年	回	開催地	優勝	準優勝	日程/会場	北海道代表チーム
2023	12	札幌	北海道大谷室蘭高等学校	北海道文教大学附属高等学校	2023年7月-8月 北海道 藤枝順心高等学校	北海道大谷室蘭高等学校 1回戦敗退 北海道文教大学附属高等学校 1回戦敗退

北海道女子U-18サッカー選手権大会				JFA全日本U-18女子サッカー選手権大会		
北海道予選				全国大会		
年	回	開催地	チーム数	結果	回/日程/会場	北海道代表チーム
2023	26	室蘭	2	優勝 クラブフィールズ・リンダ 準優勝 小樽Corsa'rio	27 2024年1月大阪 セレッソ大阪ヤンマー ガールズU-18	クラブフィールズ・リンダ 1回戦敗退

北海道U-15女子サッカー選手権大会				高円宮妃杯JFA全日本U-15女子サッカー選手権大会		
北海道予選				全国大会		
年	回	開催地	チーム数	結果	回/日程/会場	北海道代表チーム
2023	31	旭川	8	優勝 クラブフィールズ・リンダ 準優勝 十勝FSリトルガールズ U-15 3位 小樽Corsa'rio 岩見沢ルファヴェニールU-15	28 2023年12月 東京 JFAアカデミー福島	北海道リラ・コンサドーレ 1回戦敗退 クラブフィールズ・リンダ 1回戦敗退

北海道女子8人制リーグフェスティバル 北海道レディーズエイトリーグ						
年	開催地	優勝	準優勝	第3位		
2023	札幌	ノーマネ	FC Gran suma TOSHO	ReusaFC		

北海道女子8人制サッカーフェスティバル(U-13)						
年	回	開催地	第1位	第2位	第3位	
2023	5	札幌	十勝	札幌女子トレセン X	道央バーブル	

全国健康福祉祭<ねんりんピック>サッカー交流大会(60歳以上)			
全国大会			
年	回	会場	北海道代表
2023	33	愛媛	グループ第4位

全道O-70サッカーオープン大会				全日本O-70サッカー大会		
北海道予選				全国大会		
年	回	開催地	チーム数	結果	回/会場	北海道代表チーム
2023	12	札幌	7	優勝 FC70室蘭 準優勝 苫小牧シニア70サッカークラブ	17 2023年5月 宮崎 兵庫県シニア70選抜	苫小牧シニア70サッカークラブ 予選リーグ敗退 (0勝0引3敗)

全道O-60サッカー大会				全日本O-60サッカー大会		
北海道予選				全国大会		
年	回	開催地	チーム数	結果	回/会場	北海道代表チーム
2023	31	オホーツク	16	優勝 羊ヶ丘オールドキッカーズ2002/OV60 準優勝 札幌60CERI鳥	23 2023年5月 宮崎 横須賀アズール60	とちか六十雀サッカークラブ 予選リーグ敗退(0勝0引3敗) 室蘭シニア60サッカークラブ 予選リーグ敗退(1勝0引2敗)

全道O-50サッカー大会					全日本O-50サッカー大会		
北海道予選					全国大会		
年	回	開催地	チーム数	結果	回/会場	北海道代表チーム	
2023	39	小樽	16	優勝 FCKアンフィニ 準優勝 札幌50CERI鳥	22 2023年6月 静岡県 山梨マスターズ	北海道オッサンドーレ札幌50 1次ラウンド敗退(0勝0敗3分) 札幌50CERI鳥 1次ラウンド敗退(0勝1敗2分)	

全道O-40サッカー大会					全日本O-40サッカー大会		
北海道予選					全国大会		
年	回	開催地	チーム数	結果	回/会場	北海道代表チーム	
2023	48	十勝	16	優勝 北海道オッサンドーレ札幌40 準優勝 FCK ZIEX	11 2023/9月-10月 長崎 エリース東京シニア40	北海道オッサンドーレ札幌40 準優勝	

日本スポーツマスターズ(35歳以上)				
全国大会				
年	開催地	優勝	準優勝	北海道代表チーム 最終結果/予選結果
2023	福井	京都マスターズO-35	千葉県OVER35選抜	札幌Shoebill FC 1次ラウンド敗退(0勝0敗3分)

北海道シニアサッカーオープン大会				
年	回	開催地	チーム数	結果
2023	23	空知		70グループ 7 第1位 札幌四十雀サッカークラブ70FC 第2位 札幌サッカークラブ七十雀 第3位 函館四十雀70 60グループ 15 A1位 札幌60CERI鳥 B1位 羊ヶ丘オールドキッカーズ2002 C1位 北海道オッサンドーレ60 50グループ 19 A1位 釧路四十雀50サッカークラブ B1位 北海道オッサンドーレ札幌50 C1位 真栄OFC50 D1位 Docon Jack 50 40グループ 14 A1位 アンフィニVANKEI.FC40 B1位 abond football club C1位 FCK ZIEX

北海道シニア8(エイト)サッカーツアーオープン大会						
年	回	開催地	チーム数	優勝	準優勝	第3位
2023	10	根室	60・女子部門 50部門 60部門	4 3 5	オッサンドーレ札幌60 Avance 北見LRGEND	FCオールジャパン60 FC.IDEAL CUARENTA50 JUNTOS釧路 釧路四十雀60サッカークラブ 中標津レッドムーン 別海BOSシニアFC 40

全道シニア8人制サッカーオープン大会				
年	回	開催地	チーム数	結果
2023	19	札幌		70グループ 第1位 札幌四十雀サッカークラブ70FC 第2位 札幌サッカークラブ七十雀 60グループ A1位 アンフィニVANKEI.FC60 B1位 羊ヶ丘オールドキッカーズ2002/OV60 C1位 札幌60CERI鳥エメラルド 50グループ A1位 札幌50CERI鳥 White B1位 札幌50CERI鳥Blue C1位 札幌50CERI鳥セカンド D1位 北海道オッサンドーレ札幌50 40グループ A1位 abond football club B1位 FCレッドベッパー40 C1位 旭川FCオーバー40

フットサル

全日本フットサル選手権大会 北海道地域大会					全日本フットサル選手権大会		
北海道予選					全国大会		
年	回	開催地	チーム数	結果	回/日程/会場	北海道代表チーム	
2023	29	釧路他	29	優勝 Sorpresa十勝 準優勝 LEVO函館 3位 菅原工務店クレセル E.C.FIESTA	29 2024年3月 金城ふ頭他 名古屋オーシャンズ	エスポラーダ北海道 2回戦敗退 Sorpresa十勝 1回戦敗退	

北海道女子フットサル選手権大会					全日本女子フットサル選手権大会		
北海道予選					全国大会		
年	回	開催地	チーム数	結果	回/日程/会場	北海道代表チーム	
2023	22	札幌	8	優勝 S.L. DasPeed 準優勝 クラブフィールズ・リンダ 3位 エスポラーダ北海道イルネーヴェ 札幌BONITA FC	20 2024年2月 日環アリーナ栃木 SWHLレディース西宮	S.L. DasPeed 準決勝敗退	

全道大学フットサル大会兼全日本大学フットサル大会北海道代表決定戦					全日本大学フットサル大会		
北海道予選					全国大会		
年	回	開催地	チーム数	結果	回/日程/会場	北海道代表チーム	
2023	18	札幌	5	優勝 北海道大学Esperanza 準優勝 Hermosa Cadera 3位 北星学園大学	19 2023年8月 岸和田市総合 大阪成蹊大学フットサル部	北海道大学Esperanza 準々決勝敗退 Hermosa Cadera 準々決勝敗退	

全道U-17フットサル選手権大会兼全日本U-18選手権北海道予選					全日本U-18フットサル選手権大会		
北海道予選					全国大会		
年	回	開催地	チーム数	結果	回/日程/会場	北海道代表チーム	
2023	35	札幌	24	優勝 帯広大谷高等学校 準優勝 旭川美業高等学校 3位 北海道紋別高等学校サッカー部 旭美FC	11 2024年8月	北海道代表チーム	

全道U-15フットサル選手権大会兼全日本U-15選手権北海道予選					全日本U-15フットサル選手権大会		
北海道予選					全国大会		
年	回	開催地	チーム数	結果	回/日程/会場	北海道代表チーム	
2023	35	札幌	16	優勝 札幌大谷中学校サッカー部 準優勝 Regaris小樽U-15 3位 ASC北海道U-15	29 2024年1月 日環アリーナ栃木 翼SCレインボー	札幌大谷中学校サッカー部 1次R敗退 Regaris小樽U-15 1次R敗退	

全道U-15女子フットサル選手権大会兼全日本U-15女子選手権北海道予選					全日本女子U-15フットサル選手権大会		
北海道予選					全国大会		
年	回	開催地	チーム数	結果	回/日程/会場	北海道代表チーム	
2023	15	札幌	13	優勝 クラブフィールズ・リンダ 準優勝 十勝FSリトルガールズ 3位 BELINDA旭川 岩見沢FCルファヴェニールU-15	14 2024年1月 日環アリーナ栃木 十文字中学校	クラブフィールズ・リンダ 1次R敗退 グループC2位(1勝1敗)	

バーモントカップ全日本U-12フットサル選手権大会北海道予選					バーモントカップ全日本U-12フットサル選手権大会		
北海道予選					全国大会		
年	回	開催地	チーム数	結果	回/日程/会場	北海道代表チーム	
2023	33	札幌	16	優勝 FC DENOVA 札幌 準優勝 SSS札幌サッカースクール 3位 EZZORE FC	33 2023年8月 大田区他 ヴィオレータFC	FC DENOVA 札幌 準決勝敗退 グループF1位(2勝1分) SSS札幌サッカースクール 準々決勝敗退 グループG2位(2勝1敗)	

全道フットサル選手権大会 一般						
年	開催地	チーム数	優勝	準優勝	第3位	
2023	札幌	24	D.C Asahikawa Futsal Club	A.Z.cuore	Ganasal A.F.C	

全道フットサル選手権大会 女子						
年	開催地	チーム数	優勝	準優勝	第3位	
2023	札幌	14	クラブフィールズ・リンダ	札幌レディース	北海道リラ・コンサドーレ	

全道シニアフットサル選手権大会							
年	回	開催地	チーム数	優勝	準優勝	第3位	第3位
2023	12	滝川	40	11 室蘭シニア40サッカークラブ	北海道オサントーレ札幌	北海道オサントーレ札幌サテライト	函館四十雀40
		滝川	50	14 FCK アンフィニ	真栄OFC	旭川シニア750FC	札幌50CERI鳥White
		滝川	60	7 FCオールシヤハン60	札幌60CERI鳥2ND	とがち六十雀サッカークラブ	

全道フットサル選手権大会 U-14						
年	開催地	チーム数	優勝	準優勝	第3位	
2023	室蘭	24	札幌大谷中学校サッカー部	Arearea FC U-15	SSSジュニアユース	

全道フットサル選手権大会 U-12						
年	開催地	チーム数	優勝	準優勝	第3位	
2023	十勝	24	FC DENOVA 札幌	SSS札幌サッカースクール	くりやまフットボールクラブ	AVENDA FC U12

全道フットサル選手権大会 U-12女子						
年	回	開催地	チーム数	優勝	準優勝	第3位
2023	34	北見	15	リカシィ	旭川女子トレセンU-12	千歳地区トレセンU-12女子 苫小牧北光小サッカースポーツ少年団

パームトップ全日本少年フットサル大会北海道予選ブロック大会						
年	ブロック	チーム数	優勝	準優勝	第3位	
2023	札幌	34	A FC DENOVAサッポロ	LIV FC U-12	清田緑	One Eight FC
			B SSS札幌サッカースクール	札幌藻南FC	上江別Jr.FC	ヘアット北海道U-12
			C 札幌ジュニアFC	FC DENOVAサッポロ2005	NORTE札幌 FC U-12	西岡
			D FC Kitago PIVO アズベルテ	スホルテイングFC	アスルクラ札幌U-12	菊水
	道央	16	DOHTO	くりやま	ASARI	
			道南	9	A 苫小牧ELSOLE-FC U-12	フロンティアトルナーレ
	道東	12	B 北海道コンタドーレ室蘭U-12	YELL FOOTBALL CLUB	函館サッカースクールイェロー	
			C AVENDA FC U12	北海道コンタドーレ室蘭RED	高静サッカースポーツ少年団	
			A 朝陽SSM FC	網走市サッカースポーツ少年団	SSJr.FC	
	道北	8	B 開西つつじが丘JrFC	幕別礼内FC RED	FCペーネU-12	
			C FC中標津A	札南WEED	SC釧路U-12	
			A RIVALE	VITA.A	サフォーク士別	東川
			B ビアンコネロA	稚内潮見が丘	トロンコ	GBB.A

北海道フットサルリーグ				F地域チャンピオンズリーグ		
北海道予選				全国大会		
年	回	開催地	チーム数	結果	回/日程/会場	北海道代表チーム
2023	24	札幌	10	優勝 Sorpresa十勝	24 2024年2月	Sorpresa十勝
		旭川他		準優勝 LEVO函館	いちい信金アリーナ	グループC2位(1勝1敗1分)
				3位 Safilva北海道	オーパ他	

北海道フットサルリーグ ブロックリーグ決勝大会(北海道フットサル地区リーグ決勝大会)						
年	回	開催地	チーム数	優勝	準優勝	第3位
2023	7	札幌	4	FIVE A SIDE	Rivalis	Diablo

北海道フットサルリーグ ブロックリーグ						
年	回	ブロック	チーム数	優勝	準優勝	第3位
2023	7	道央	6	FIVE A SIDE	E.C.FIESTA	TRIUMPH
		道北	6	K・S disfida	dispositivo de fut	MADNESS A.F.C
		道南	5	Diablo	ARIVALUZ室蘭	Dominar
		道東	4	Rivalis	FORTVNA釧路	Armada

北海道女子フットサルリーグ(1部)				FUTSAL地域女子チャンピオンズリーグ		
北海道予選				全国大会		
年	回	開催地	チーム数	結果	回/日程/会場	北海道代表チーム
2023	13	札幌	8	優勝 札幌BONITA FC	11 2024年2月	札幌BONITA FC
		旭川他		準優勝 Colmillo	日環アリーナ栃木	1次R敗退 グループC4位(0勝2敗1分)
				3位 S.L DasPeed	ハルドラール浦安	

北海道女子フットサルリーグ(2部)						
年	回	開催地	チーム数	優勝	準優勝	第3位
2023	13	札幌他	6	HOKUTO ALMA	BrillaLula函館	salute

全道自治体職員フットサル大会						
年	回	ブロック	チーム数	優勝	準優勝	第3位
2023	19	南 小樽	16	函館市役所	岩見沢市役所	札幌市役所
		北 釧路	5	名寄F.C	室蘭市役所サッカー部	FSC岩見沢

北海道フットサルリーグカップ						
年	回	開催地	チーム数	優勝	準優勝	第3位
2023	12	江別	12	Sorpresa十勝	Safilva北海道	S.L DasPeed
						LEVO函館

LUXPERIOR CUP 北海道大学フットサルリーグ						
年	回	開催地	チーム数	優勝	準優勝	第3位
2023	19	札幌	7	北海道大学Esperanza	Hermosa Cadera	北海道教育大学

U-10フットサルリーグ						
年	回	開催地	チーム数	優勝	準優勝	第3位
2023	19	札幌	21	AGGRE U-12	太平FCブルー	篠路FCスポーツ少年団

U-8フットサルリーグ						
年	回	開催地	チーム数	優勝	準優勝	第3位
2023	14	札幌	6	Safilva北海道	ウイェント イエロー	月寒サッカースポーツ少年団

全道U-15フットサル大会兼全日本U-15北海道代表決定戦 ブロック予選						
年	ブロック	チーム数	優勝	準優勝	第3位	
2023	札幌	12	A 札幌大谷中学校	HKD FC 2nd	SSSサクセス	FIBRA
			B HKD FC	石狩FC	SSSジュニアユース	Rugart
			C クラブフィールズ	FCフォルテ	NORTE	アスルクアロ札幌
	道央	16	泊SC R	Regaris小樽	DOHTO	
	道南	6	Arearea FC U-15A	フロンティアトルナーレFC	北湘南サッカースクール	
道東	16	北海道コンタクトレ剣路U-15	プログレッシブ勝FC U-15	帯北FC U-15		
道北	8	A EINS FSU	TRAUM SV 旭川	B.N.F.C.	稚内南中学校	
B 上富良野中学校		サフォーランド 土別SC	愛宕中学校	潮見が丘中学校		

ビーチサッカー大会北海道予選				全国ビーチサッカー大会		
北海道予選				全国大会		
年	回	開催地	チーム数	結果	回/日程/会場	北海道代表チーム
2023	18	イタンキ	3	優勝 大鎮キムラ建設 By II 準優勝 MIRAGE 3位 帯広北高校	18 2023年9月 明石市 東京ヴェルディ	大鎮キムラ建設 By II 1回戦敗退

北海道チャレンジサッカー大会(11人制)						
年	回	開催地	チーム数	優勝	準優勝	第3位
2023	22	栗山	11	札幌NFCトップ	豊明・みなみの杜	あいの里高等支援学校

北海道チャレンジサッカー大会(8人制)						
年	回	開催地	チーム数	フリークラス	フレンドリー	ジュニア
2023	22	栗山	12	札幌NFCトップ	OKS	放課後デイサービス笑

北海道高等養護学校サッカー大会							
年	回	開催地	チーム数	優勝	準優勝	第3位	第4位
2023	13	新篠津	8	札幌あいの里高等支援学校	市立札幌豊明高等支援学校	小樽高等支援学校	札高養・千歳・あいの里

北海道チャレンジフットサル大会						
年	回	開催地	チーム数	ジュニアクラス	一般フリークラス	一般フレンドリークラス
2023	23	札幌市	37	石山レインボーレド、HCS	新高サッカー部	函館五稜郭FC

2023年度日本代表各カテゴリー選手/役員(北海道関連)

2024年6月1日現在

第50回モンテギュー国際大会U-16日本代表
3/28～4/12@フランス
川崎 幹大 (北海道コンサドーレ札幌U-18)
モンテギュー国際大会U-16日本女子代表
4/3～4/9@フランス
菊地 花奈 (北海道コンサドーレ旭川U-15)
なでしこジャパン国際親善試合
4/7@ポルトガル 4/11@デンマーク
フィジカルコーチ:大塚 慶輔 (日本サッカー協会 ナショナルコーチングスタッフ)
熊谷 紗希 (FCバイエルン・ミュンヘン/ドイツ) 三宅 史織 (INAC神戸レオネッサ)
フットサル日本代表 モロッコ遠征
4/10～4/19 @モロッコ
コーチ:高橋 健介 (日本サッカー協会ナショナルコーチングスタッフ)
U-22日本代表候補トレーニングキャンプ
4/23～4/26 @高円宮記念JFA夢フィールド
テクニカルスタッフ:渡邊 秀朗 (日本サッカー協会テクニカルハウス)
U-15日本代表 スペイン遠征
4/23～5/2 @スペイン
コーチ:鈴木 貴浩 (日本サッカー協会JFAコーチ)
フットサル日本女子代表候補トレーニングキャンプ
5/1～5/3 @高円宮記念JFA夢フィールド
GKコーチ:三浦 拓 (JFAフットサルGKプロジェクト/北海道文教大附属高)
金井 里和 (エスポラーダ北海道イルネーヴェ)
U-20日本代表 FIFA U-20ワールドカップアルゼンチン2023
5/20～6/11 @アルゼンチン
松田 隼風 (水戸ホーリーホック)
U-16日本代表 International Dream Cup 2023 JAPAN
5/29～6/4 @Jヴィレッジスタジアム
川崎 幹大 (北海道コンサドーレ札幌U-18)
U-22日本代表 欧州遠征
6/10@イングランド 6/14@オーストリア
テクニカルスタッフ:渡邊 秀朗 (日本サッカー協会テクニカルハウス)
U-17日本代表 AFC U17アジアカップ タイ2023
6/17～7/2 @タイ
矢田 龍之介 (清水エスパルスユース)
なでしこジャパン MS&ADカップ2023
7/14@ユアテックスタジアム仙台
フィジカルコーチ:大塚 慶輔 (日本サッカー協会 ナショナルコーチングスタッフ)
熊谷 紗希 (ASローマ/イタリア) 三宅 史織 (INAC神戸レオネッサ)
なでしこジャパン FIFA 女子ワールドカップ オーストラリア&ニュージーランド2023
7/20～8/20 @オーストラリア、ニュージーランド
フィジカルコーチ:大塚 慶輔 (日本サッカー協会 ナショナルコーチングスタッフ)
熊谷 紗希 (ASローマ/イタリア) 三宅 史織 (INAC神戸レオネッサ)
U-18日本代表 2023 SBSカップ国際ユースサッカー
8/12～8/20 @静岡県
テクニカルスタッフ:渡邊 秀朗 (日本サッカー協会テクニカルハウス)

U-15日本代表 EAFF U15 男子選手権 2023
8/28～9/9 @中国
ドクター:神谷 智昭 (HKFA医学委員会委員長)
吉田 遥翔 (スプレッド・イーグルFC函館) 佐々木 瑛汰 (北海道コンサドーレ札幌U-15)
U-17日本代表 リモージュ国際大会
9/3～9/12 @フランス
矢田 龍之介 (清水エスパルスユース)
U-22日本代表 AFC U23アジアカップ カタール 2024予選
9/3～9/13 @バーレーン
テクニカルスタッフ:渡邊 秀朗 (日本サッカー協会 テクニカルハウス)
松木 玖生 (FC東京)
U-15日本代表候補国内キャンプ
9/4～9/6 @高円宮記念JFA夢フィールド
コーチ:鈴木 貴浩 (日本サッカー協会 JFAコーチ)
フットサル日本代表 ブラジル遠征
9/11～9/17 @ブラジル
コーチ:高橋 健介 (日本サッカー協会 ナショナルコーチングスタッフ)
伊藤 圭汰 (ベスカドーラ町田)
U-22日本代表 第19回アジア競技大会
9/15～10/8 @中国
テクニカルスタッフ:渡邊 秀朗 (日本サッカー協会 テクニカルハウス)
なでしこジャパン 国際親善試合
9/23 @北九州スタジアム
フィジカルコーチ:大塚 慶輔 (日本サッカー協会 ナショナルコーチングスタッフ)
熊谷 紗希 (ASローマ/イタリア) 三宅 史織 (INAC神戸レオネッサ)
フットサル日本代表AFCフットサルアジアカップ2024 1次予選
9/28～10/12 @ 千葉、チャイニーズタイペイ
コーチ:高橋 健介 (日本サッカー協会 ナショナルコーチングスタッフ)
U-22日本代表 10月海外遠征
10/8～10/19 @アメリカ
テクニカルスタッフ:渡邊 秀朗 (日本サッカー協会 テクニカルハウス)
松木 玖生 (FC東京)
なでしこジャパン トレーニングキャンプ
10/17～10/22 @高円宮記念JFA夢フィールド
フィジカルコーチ:大塚 慶輔 (日本サッカー協会 ナショナルコーチングスタッフ)
熊谷 紗希 (ASローマ/イタリア) 三宅 史織 (INAC神戸レオネッサ)
なでしこジャパン 女子オリンピック サッカートーナメント パリ 2024 アジア2次予選
10/23～11/2 @ウズベキスタン
フィジカルコーチ:大塚 慶輔 (日本サッカー協会 ナショナルコーチングスタッフ)
熊谷 紗希 (ASローマ/イタリア) 三宅 史織 (INAC神戸レオネッサ)
U-16日本女子代表候補 国内トレーニングキャンプ
10/30～11/3 @高円宮記念JFA夢フィールド
菊地 花奈 (マイナビ仙台レディースユース)
U-17日本代表 FIFA U-17 ワールドカップ インドネシア 2023
10/30～11/1 @千葉、インドネシア
矢田 龍之介 (清水エスパルスユース)
U-22日本代表 国際親善試合
11/18 @IAIスタジアム日本平
松木 玖生 (FC東京)

フットサル日本代表国際親善試合
11/22～11/23 @ウズベキスタン
コーチ:高橋 健介 (日本サッカー協会 ナショナルコーチングスタッフ)
伊藤 圭汰 (ペスカドーラ町田)
なでしこジャパン国際親善試合
11/30～12/3 @ブラジル
フィジカルコーチ:大塚 慶輔 (日本サッカー協会 ナショナルコーチングスタッフ)
熊谷 紗希 (ASローマ/イタリア) 三宅 史織 (INAC神戸レオネッサ)
U-19日本女子代表候補トレーニングキャンプ
12/10～12/14 @J-GREEN堺
フィジカルコーチ:大塚 慶輔 (日本サッカー協会 ナショナルコーチングスタッフ)
フットサル日本代表 国際親善試合
12/14 @東京/太田 12/17 @北海道/帯広
コーチ:高橋 健介 (日本サッカー協会 ナショナルコーチングスタッフ)
U-18日本代表 IBARAKI Next Generation Cup 2023
12/18～12/24 @茨城
テクニカルスタッフ:渡邊 秀朗 (日本サッカー協会 テクニカルハウス)
SAMURAI BLUE AFCアジアカップカタール2023
1/12～2/10 @カタール
テクニカルスタッフ:渡邊 秀朗 (日本サッカー協会 テクニカルハウス)
フットサル日本代表国際親善試合
2/3～2/5 @ポルトガル
コーチ:高橋 健介 (日本サッカー協会 ナショナルコーチングスタッフ)
U-16日本代表 U16アルガルベカップ2024
2/5～2/16 @千葉、ポルトガル
ドクター:神谷 智昭 (HKFA医学委員会委員長)
なでしこジャパン パリオリンピック2024 女子サッカー アジア最終予選
2/24 @サウジアラビア 2/28 @国立競技場
フィジカルコーチ:大塚 慶輔 (日本サッカー協会 ナショナルコーチングスタッフ)
熊谷 紗希 (ASローマ/イタリア)
U-16日本代表 トルコ遠征
2/24～3/5 @トルコ
吉田 遥翔 (スプレッド・イーグルFC函館)
U-16日本女子代表 モンテギュー国際大会
3/21～4/2 @フランス
梶 結南 (北海道リラ・コンサドーレ)
U-23日本代表 国際親善試合
3/22 @サンガスタジアム by KYOCERA 3/25 @北九州スタジアム
テクニカルスタッフ:渡邊 秀朗 (日本サッカー協会 テクニカルハウス)
松木 玖生 (FC東京)

編集後記

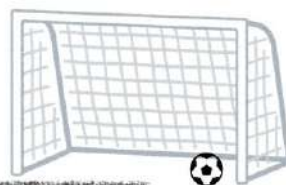
2024HKFA要覧をお読みいただきありがとうございます。

この要覧は、当協会の一年間の活動すべてを纏めた冊子です。数年後、数十年後に繋がる大切な記録となりますので、その編集に携わる事ができ、改めてその大切さを感じました。

また、今回の表紙は、女子副委員長の橋本美湖さんにご依頼したところ、快くお引き受け頂き、素敵な表紙を作成頂きました。本当にありがとうございます。

各種委員長の皆さま、加盟団体の皆さま、お忙しい中、原稿をお纏め頂き誠にありがとうございました。この場をお借りし、お礼申し上げます。

公益財団法人 北海道サッカー協会職員一同





公益財団法人北海道サッカー協会

〒062-0912 北海道札幌市豊平区水車町5丁目5-41
北海道フットボールセンター
TEL 011-825-1100 FAX 011-825-1101
URL <https://www.hfa-dream.or.jp>

発行日 2024年6月30日

HP 公開用

本誌の記事・写真・図表・ロゴマークなどの無断転載を禁じます。